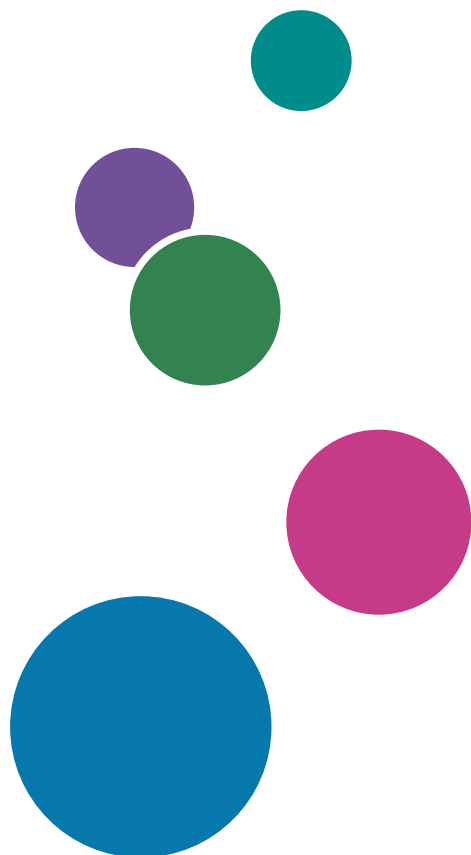




クイックガイド

本機をお使いになる前に	1
本機の概要	2
本機の基本操作	3
かんたん色調整	4
色見本合わせ	5
管理コンソール	6
カスタム測色	7
用紙が詰まったとき	8

本書に記載されていない情報については、製品のヘルプ・システムを参照してください。



はじめに

本機のマニュアル

RICOH Auto Color Adjusterに関する追加情報は、他のマニュアルにも記載されています。

使用説明書

本機には以下の使用説明書が付属されています。

- 「RICOH Auto Color Adjuster：安全上のご注意」
本機を安全に正しくお使いいただくための注意事項、各規制や環境対応について説明しています。本機のご利用前に必ずお読みください。
- 「RICOH Auto Color Adjuster：インストールガイド」
アプリケーションのインストールや、本機のご利用前に必要な各種設定について説明しています。本機のご利用前に必ずお読みください。
- 「RICOH Auto Color Adjuster：ユーザーガイド」
本機の機能と各機能の操作方法について説明しています。また、エラーメッセージが表示されたときの対処方法についても説明しています。
- 「RICOH Auto Color Adjuster：クイックガイド」
本機の基本的な使いかた、よく使用する機能について説明しています。また、エラーメッセージが表示されたときの対処方法についても説明しています。
- RICOH Auto Color Adjusterリリースノート
新機能やアップデート、既知の制限、問題、回避策、コード変更要求など、RICOH Auto Color Adjusterリリースに関する情報が記載されています。

使用説明書は英語、日本語、オランダ語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語で提供されています。リリースノートは英語版のみ提供されています。

使用説明書は、[RICOH Software Information Center \(https://help.ricohsoftware.com/swinfocenter/\)](https://help.ricohsoftware.com/swinfocenter/) または製品内のヘルプメニューからダウンロードできます。

RICOH Auto Color Adjuster Information Center

Information Center には、管理者、監督者、およびオペレーターがRICOH Auto Color Adjuster について学び、インストールし、使用するのに役立つトピックが含まれています。Information Centerにはクイックナビゲーションと検索機能が提供されています。

RICOH Auto Color Adjusterヘルプ

ヘルプシステムには、管理者、監督者、およびオペレーターがRICOH Auto Color Adjuster について学び、使用するのに役立つトピックが含まれています。RICOH Auto Color Adjusterヘルプは、アプリケーションのユーザーインターフェースとWebのユーザーインターフェースの両方から利用できます。

使用説明書に使用されているマークの意味

本書で使われているマークには次のような意味があります。

 **重要**

本機をご利用になるときに留意していただきたい項目を記載しています。また、用紙の給紙エラーや原稿の破損、データの消失につながる可能性のある項目について、問題を引き起こしている可能性が高い原因も説明しています。

 **補足**

機能についての補足項目、操作を誤ったときの対処方法などを記載しています。

[太字]

角括弧の [太字] はキー、メニュー、メニュー項目、フィールドラベル、設定、ボタンの名称を示します。

[]

大括弧は、キー、メニュー、メニュー項目、フィールドラベル、設定、ボタンの名前を示します。

斜体

イタリック体は、ユーザー独自の情報に置き換える変数を示します。

等幅フォント

等幅フォントは、コンピューターの入出力やファイル名を示します。

本書で使用されている略語

A

アンペア

APPE

Adobe PDF印刷エンジン

AVE

平均

CCW

反時計方向

CGATS

グラフィックアート技術基準委員会

CMY

シアン、マゼンタ、イエロー

CMYK

シアン、マゼンタ、イエロー、キー（ブラック）

CPSI

構成可能なPostScriptインタープリター

CPU

中央処理装置

CSV

カンマ区切りの値

CW

時計方向

DFE

デジタルフロントエンド

g

グラム

GB

ギガバイト

GPL

一般公衆ライセンス

HTTPS

ハイパーテキスト転送プロトコル

Hz

ヘルツ

ID

識別子

ICC

インターナショナルカラーコンソーシアム

IP

インターネットプロトコル

K

ブラック

kg

キログラム

m

メートル

mm

ミリメートル

MAX

最大

NG

不良

PDF

ポータブル文書形式

PDF/X

ポータブル文書形式 / レベルX

RAM

ランダムアクセスメモリー

RIP

ラスター画像処理装置

TIFF

タグ付き画像ファイル形式

TXT

テキスト

USB

ユニバーサルシリアルバス

V

ボルト

おことわり

本製品の故障による損害、文書やデータの消失による損害、その他本製品および使用説明書の使用または使用不能により生じた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

大切な文書やデータは、コピー（複製）をとってください。お客様が操作をミスした場合は、あるいは本製品に異常が生じた場合は、文書やデータが消失することがあります。また、コンピューターウイルス、ワーム、その他の有害なソフトウェア等に対する予防措置は、お客様の責任で講じてください。

お客様が本製品を使用して作成した文書やデータを運用した結果については、当社は一切その責任を負いませんのであらかじめご了承ください。

本書についてのご注意

- 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
- 製品の改良または変更により、本書のイラストや記載事項とお客様の機械とが一部異なる場合がありますのでご了承ください。
- お住まいの国によって、特定のユニットはオプションになります。詳しくは、お買い上げの販売店にご連絡ください。

-
- 本書の一部または全部を無断で複製、複製、改変、引用、転載することはできません。

商標

Adobe、Acrobat は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびにその他の国における商標または登録商標です。

Apache、Tomcat は、Apache Software Foundation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Command WorkStation、Fiery、Fieryロゴ、EFIロゴは、Electronics For Imaging, Inc.の米国およびその他の国における商標です。

FOGRAはFOGRA Forschungsgesellschaft Druck e.V.の登録商標です。

Google Chromeは、Google LLCの商標です。

GRACoL®はIdeallianceの登録著作権です。

Intel Coreは米国およびその他の国におけるIntel Corporation の商標です。

Microsoft、Windows、Visual C++、BitLockerは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows 10 の製品名は以下のとおりです。

- Microsoft® Windows® 10 Home
- Microsoft® Windows® 10 Pro
- Microsoft® Windows® 10 Enterprise
- Microsoft® Windows® 10 Education
- Microsoft® Windows® 10 Mobile
- Microsoft® Windows® 10 Mobile Enterprise

Windows 11 の製品名は以下のとおりです。

- Microsoft® Windows® 11 Home
- Microsoft® Windows® 11 Pro
- Microsoft® Windows® 11 Pro Education
- Microsoft® Windows® 11 Pro for Workstations
- Microsoft® Windows® 11 Enterprise
- Microsoft® Windows® 11 Education

Japan Color及びジャパンカラーは一般社団法人日本印刷学会と一般社団法人日本印刷産業機械工業会の商標登録です。

本書に記載されているその他の製品名は、識別のためにのみ使用されており、各社の商標である場合があります。当社では、このような商標に関する一切の権利を否認します。

Microsoft Corporationのガイドラインに従ってMicrosoft社製品の画面写真を使用しています。

お問い合わせ

故障・保守サービスに関するお問い合わせ

故障・保守サービスについては、サービス実施店または販売店にお問い合わせください。
修理範囲（サービスの内容）、修理費用の目安、修理期間、手続きなどをご要望に応じて説明いたします。

転居の際は、サービス実施店または販売店にご連絡ください。転居先の最寄りのサービス実施店、販売店をご紹介します。

<https://www.ricoh.co.jp/support/repair/>

本製品に関する仕様・操作・修理のお問い合わせ

RICOH GC サポートデスク

0120-237-615

- 受付時間
平日 / 9～17 時（修理受付のみ 9:00～17:30）
土曜 / 9～17 時（修理受付のみ。日、祝祭日及び弊社休業日は除く）
- 土曜日は、修理のみ受付させていただきます。
- お問い合わせの際、機番を確認させていただきます。ご協力お願いいたします。
- 対応状況の確認と対応品質向上のため、録音させて頂いております。
- 弊社製品に関する消耗品は、お買い上げの販売店にご注文ください。

Web でのお問い合わせ

ホームページからもお問い合わせ、修理のお申し込み・ご相談を承っております。

<https://www.ricoh.co.jp/contact/product.html>



この説明書はリサイクルに配慮し製本しています。この説明書が不要になったときは、資源回収、リサイクルに出しましょう。

目次

はじめに

本機のマニュアル.....	1
使用説明書に使用されているマークの意味.....	2
本書で使用されている略語.....	2
おことわり.....	4
本書についてのご注意.....	4
商標.....	5
お問い合わせ.....	6

1 本機をお使いになる前に

本機でできること.....	9
---------------	---

2 本機の概要

機器構成.....	11
本体各部の名称.....	12
プリンターの使用に必要なアプリケーション.....	14
コンピューターのシステム要件.....	15

3 本機の基本操作

本機の電源を入れる/切る.....	17
本機の電源を入れる.....	17
本機の電源を切る.....	18
RICOH Auto Color Adjuster アプリケーションを使用する.....	19
メニュー画面を表示する.....	20
Webブラウザで画面を表示する.....	21
アプリケーションの画面構成.....	22
給紙トレイにチャートをセットする.....	23
使用できる用紙のサイズと厚さ.....	23
給紙トレイに原稿/チャートをセットする.....	26

4 かんたん色調整

かんたん色調整の流れ.....	29
チャートについて.....	29
プロファイル登録時の注意事項.....	30
色調整と色判定を実行するとき.....	31
かんたん色調整を実行する.....	31
色調整を実行する.....	32
色判定を実行する.....	38

5 色見本合わせ

色見本合わせの流れ.....	47
色見本合わせに対応している原稿データ.....	50
色見本合わせを実行する.....	51
操作前の注意事項.....	51
色見本合わせのデータを準備する.....	51
色合わせをしてプロファイルを作成する.....	56
色見本合わせを応用する.....	61
複数ページの原稿データを使用する.....	62
領域と向きを指定する.....	64

6 管理コンソール

管理コンソールの流れ.....	69
別のコンピューターから管理コンソールを使用する.....	69
レポートファイルを保存する.....	70
管理コンソールで色調整結果を確認する.....	70
[管理コンソール] 画面を表示する.....	70
色の経時変化を確認する.....	72

7 カスタム測色

カスタム測色の流れ.....	77
測色用チャートを確認する.....	77
カスタム測色を実行する.....	78

8 用紙が詰まったとき

詰まった用紙を取り除く.....	83
------------------	----

1. 本機をお使いになる前に

- 本機でできること

本機でできること

本製品は、プリンターの色調整、色合わせ、色度測定、管理を効率的に実現するソリューションです。

RICOH Auto Color Adjusterは、以下の4つの機能で構成されています。

[かんたん色調整]

チャートを読み込んで、プロファイルを自動作成します。この機能を定期的に使用することで、印刷物の色味が機器の状態や印刷環境によって変化することを防ぎます。

[色見本合わせ]

[色見本合わせ] 機能を使用して、印刷した色見本を読み込んで、それを基にプロファイルを作成します。作成したプロファイルを使用して、色見本の色味に近づけた色を印刷ページに再現します。

[管理コンソール]

各種認証基準でプリンターの色調整結果を簡易判定します。プリンターごとに判定結果の経時変化の記録を管理できます。

[カスタム測色]

定期的に印刷したテストチャートの色を測定します。測定結果をファイルに保存し、色管理や他の類似したアプリケーションを使用して管理できます。

↓ 補足

- [カスタム測色] を除く各機能を使用するときは、機能ごとの契約が必要です。

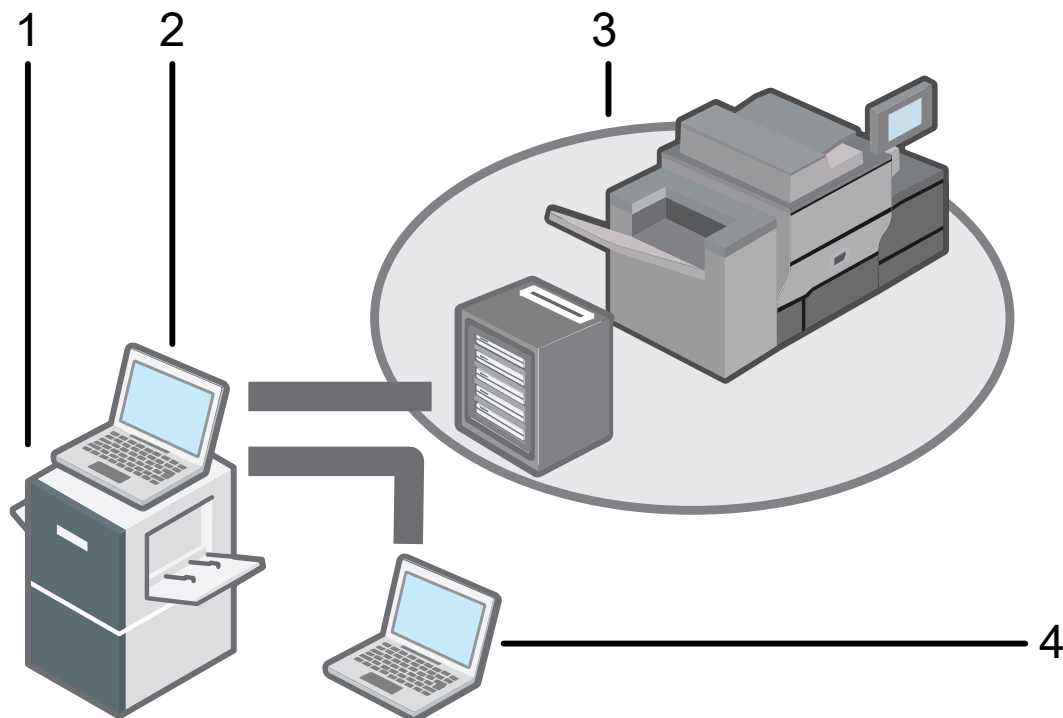
2. 本機の概要

- 機器構成
- プリンターの使用に必要なアプリケーション

本機を使用するために必要な機器の構成と、本体各部の名称について説明します。また、本機を制御するためのアプリケーションについても説明します。

機器構成

USBケーブルで本機に接続しているコンピューターを使用して、本機の操作やDFEへのプロファイル登録などをします。本機に接続しているコンピューターは、以下のようなネットワーク環境で使用します。

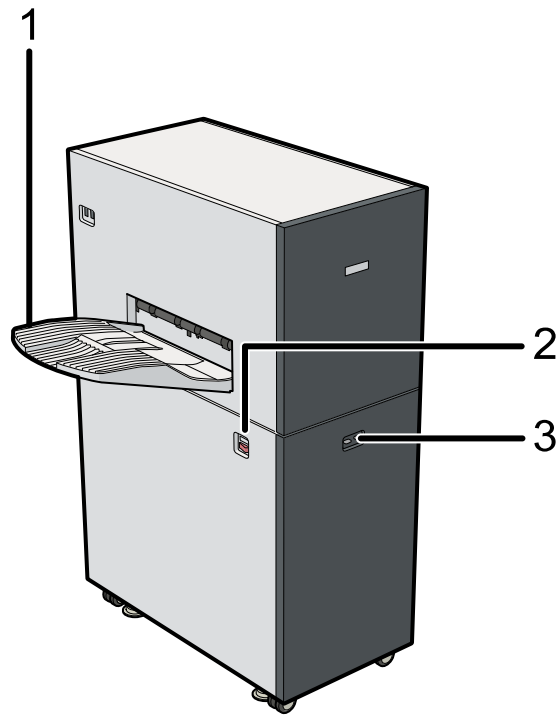


M582IM0151

- 1 本機
- 2 付属の2本のUSBケーブルで本機に接続しているコンピューター。[かんたん色調整]、[色見本合わせ]、[カスタム測色]、[管理コンソール]などのすべての機能を使用できます。
- 3 プリンターとDFE：Fieryカラーコントローラー、TotalFlow プリントサーバー、または他のプリンター制御装置
- 4 ネットワーク上のコンピューター
[管理コンソール]を使用して、プリンターの色を管理できます。

本体各部の名称

前面（左側）

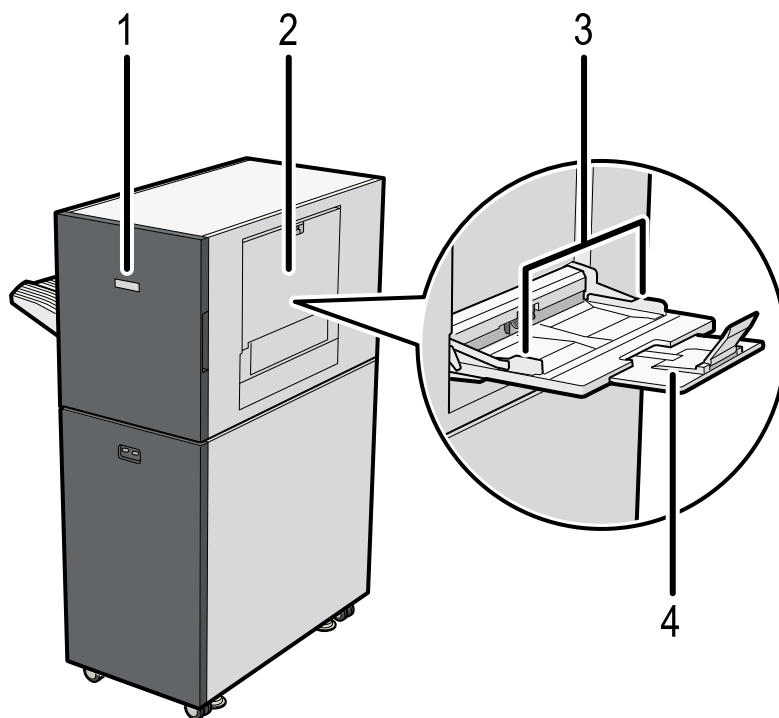


M582IM0061

- 1 排紙トレイ
- 2 電源スイッチ

- 3 ランプ

前面（右側）

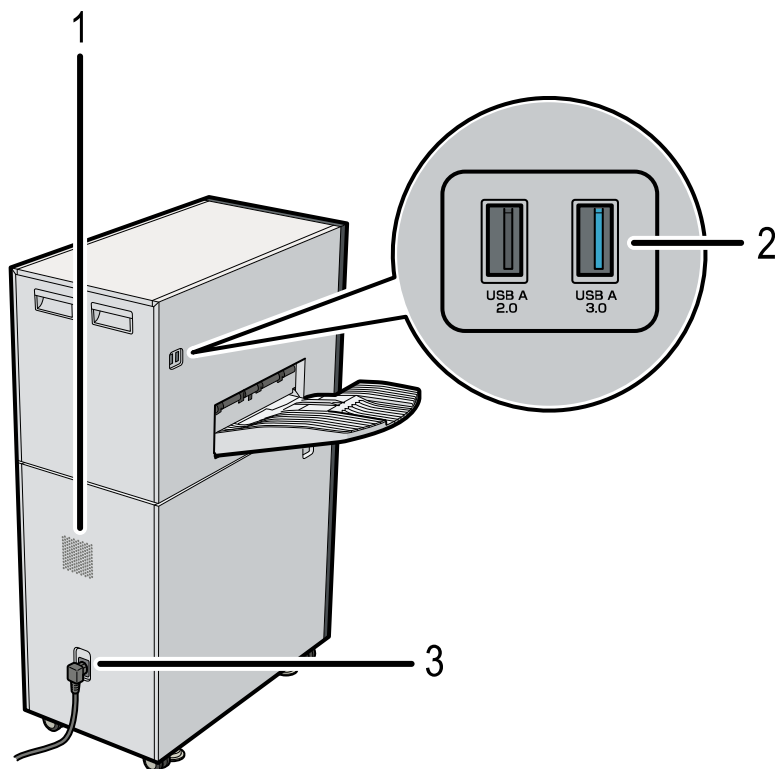


M582IM0062

- 1 前ドア
- 2 給紙トレイ

- 3 用紙ガイド板
- 4 延長トレイ

背面（左側）



M582IM0063

- | | | | |
|---|-------------|---|----------|
| 1 | 通風孔 | 3 | 電源コード接続口 |
| 2 | USBインターフェース | | |

↓ 補足

- 排紙されたシートが丸まっていたり、きれいに積み重ねられなかったりする場合は、付属の補助トレイを排紙トレイに取り付けてください。詳しくは、「RICOH Auto Color Adjuster：ユーザーガイド」を参照してください。
- 通風孔は、本機の内部の温度上昇を防ぎます。通風孔をふさがないでください。
- 付属のUSBケーブル以外のケーブルは使用しないでください。本機の正常な動作は、付属のUSBケーブルでコンピューターに接続されているときにのみ保証されます。
- 電源コードは100V、1.5A以上、50/60Hzの電源コンセントに接続します。電源プラグは必ずアース線を接続してから、電源コンセントに直接、しっかりと接続してください。
- 本機の上部に過度な荷重をかけないでください。本機が転倒してけがをする恐れがあります。
- 排紙トレイ、前ドア、給紙トレイ、用紙ガイド板、延長トレイに過度な荷重をかけないでください。本機が破損する原因になります。

プリンターの使用に必要なアプリケーション

本機を使用するには、付属のUSBケーブルで本機に接続しているコンピューターに、以下のアプリケーションをインストールしてください。

アプリケーションのインストール方法については、「RICOH Auto Color Adjuster：インストールガイド」を参照してください。

アプリケーション	概要
RICOH Auto Color Adjuster	[かんたん色調整]、[色見本合わせ]、[カスタム測色]の機能を搭載した専用のアプリケーションです。
Fiery Command Workstation	RICOH Auto Color Adjusterの[kanたん色調整]機能を使用するために必要なアプリケーションです。Fiery Command Workstationは、Fiery DFEを使用する際のプロファイルの自動登録に使用されます。
ColorGATE Productionserver	RICOH Auto Color Adjusterの[kanたん色調整]機能を使用するために必要なアプリケーションです。ColorGATE Productionserverはプロファイルの自動作成に使用されますが、ユーザーの操作は必要ありません。
GPL Ghostscript バージョン：9.27	RICOH Auto Color Adjusterの[色見本合わせ]機能を使用して、原稿データ(PDF)をTIFF形式の画像データに変換するために必要なアプリケーションです。ユーザーのGPL Ghostscriptの操作は必要ありません。

コンピューターのシステム要件

項目	要件	
OS	Windows 10 Pro 64 bit、バージョン2004 以降 Windows 11 Pro	
Webブラウザ	Google Chrome、バージョン93 以降	
ハードウェア	CPU	Intel Core i7-8650U 以上
	RAM	16 GB 以上
	ディスク領域	256 GB 以上
	解像度	1,920 × 1,080 以上
	USBポート	USB 3.0 ポート × 1、USB 2.0/2.1 ポート × 1

3. 本機の基本操作

- 本機の電源を入れる/切る
- RICOH Auto Color Adjuster アプリケーションを使用する
- アプリケーションの画面構成
- 給紙トレイにチャートをセットする

本機とRICOH Auto Color Adjusterアプリケーションの操作に関する基本情報を説明します。

本機の電源を入れる/切る

本機の電源を入れたり切ったりするときは、本機の左側にある電源スイッチを使用します。

★重要

- 本機の電源を切った後は、すぐに電源を入れしないでください。本機の電源を入れ直す前に、ランプが10秒以上消灯するまで待ってください。
- 本機の電源を入れた後は、すぐに電源を切らないでください。本機の電源を切る前に、ランプが10秒以上点灯するまで待ってください。

本機の電源を入れる

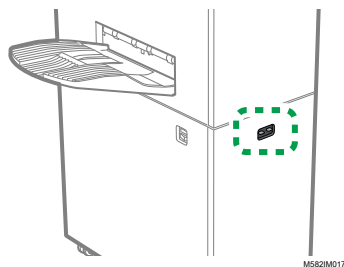
本機の電源を入れるには、本機の左側にある電源スイッチを使用します。

★重要

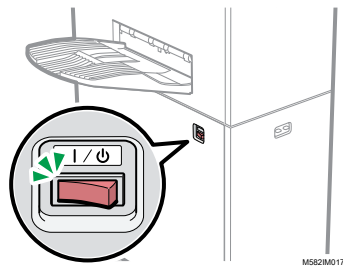
- 本機の電源を切った後は、すぐに電源を入れしないでください。本機の電源を入れ直す前に、ランプが10秒以上消灯するまで待ってください。

本機の電源を入れるには、次の手順を実行します。

1. 本機の電源ランプが点灯していないことを確認します。



2. 電源コードのプラグをコンセントにしっかりと差し込みます。
3. 本機の左側にある電源スイッチをオンにします。



ランプが青色に点灯します。

4. 本機に接続したコンピューターの電源を入れます。

3

本機の電源を切る

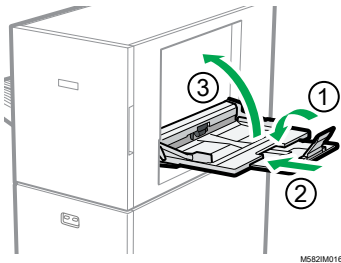
本機の電源を切るには、本機の左側にある電源スイッチを使用します。

★重要

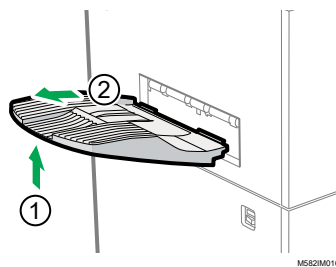
- 本機の電源を入れた後は、すぐに電源を切らないでください。本機の電源を切る前に、ランプが10秒以上点灯するまで待ってください。

本機の電源を切るには、次の手順を実行します。

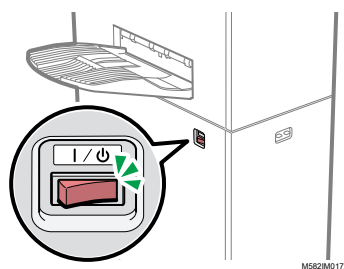
1. 本機に接続したコンピューターの電源を切ります。
2. 必要に応じて給紙トレイを閉じてください。
 1. 延長トレイを折りたたみ(1)、元の位置に戻します(2)。



2. 給紙トレイをロックがかかるまで持ち上げて閉じます(3)。
3. 必要に応じて、排紙トレイを固定台から取り外します。
 1. 排紙トレイを上を押上げます(1)。



2. 排紙トレイを引き出します(2)。
4. 本機の左側にある電源スイッチをオフにします。



ランプが消灯します。

RICOH Auto Color Adjuster アプリケーションを使用する

本機を操作するには、コンピューターにインストールしたRICOH Auto Color Adjuster を使用します。RICOH Auto Color Adjusterの機能と設定、各機能の起動方法と設定メニューへのアクセス方法について説明します。


機能と設定へのアクセス方法	機能/設定	概要
RICOH Auto Color Adjusterのメニュー画面で機能または設定ボタンを選択します。	[かんたん色調整]	<p>チャートを読み込んで、プロファイルを自動作成します。作成されたプロファイルを出力（プリンター）プロファイルとしてDFEに登録し、原稿データの印刷時に使用します。この機能を定期的に使用することで、印刷物の色味が機器の状態や印刷環境によって変化することを防ぎます。</p> <p>詳しくは、P.29 「かんたん色調整」を参照してください。</p>
	[色見本合わせ]	<p>[色見本合わせ] 機能を使用して、印刷した色見本を読み込んで、それを基にプロファイルを作成します。作成されたプロファイルをCMYK入力（ソース）プロファイルとしてDFEに登録し、原稿データの印刷時に使用します。作成したプロファイルを使用すると、色見本の色味に近づけた色を印刷ページに再現できます。</p> <p>詳しくは、P.47 「色見本合わせ」を参照してください。</p>
	[カスタム測色]	<p>定期的に印刷したテストチャートの色を測定します。測定結果をファイルに保存し、色管理や他の類似したアプリケーションを使用して管理できます。</p> <p>詳しくは、P.77 「カスタム測色」を参照してください。</p>
	[本体設定]	<p>本機の各種設定を指定します。</p> <p>詳しくは、「RICOH Auto Color Adjuster：インストールガイド」を参照してください。</p>
Webブラウザで機能または設定ボタンを選択する	[管理コンソール]	<p>各種認証基準でプリンターの色調整結果の簡易判定します。各プリンターの判定結果の経年変化の記録を管理できます。</p> <p>詳しくは、P.69 「管理コンソール」を参照してください。</p>
	[初期設定]	<p>[かんたん色調整] で使用するプリンター、用紙種類、その他の設定を指定します。</p> <p>詳しくは、「RICOH Auto Color Adjuster：インストールガイド」を参照してください。</p>

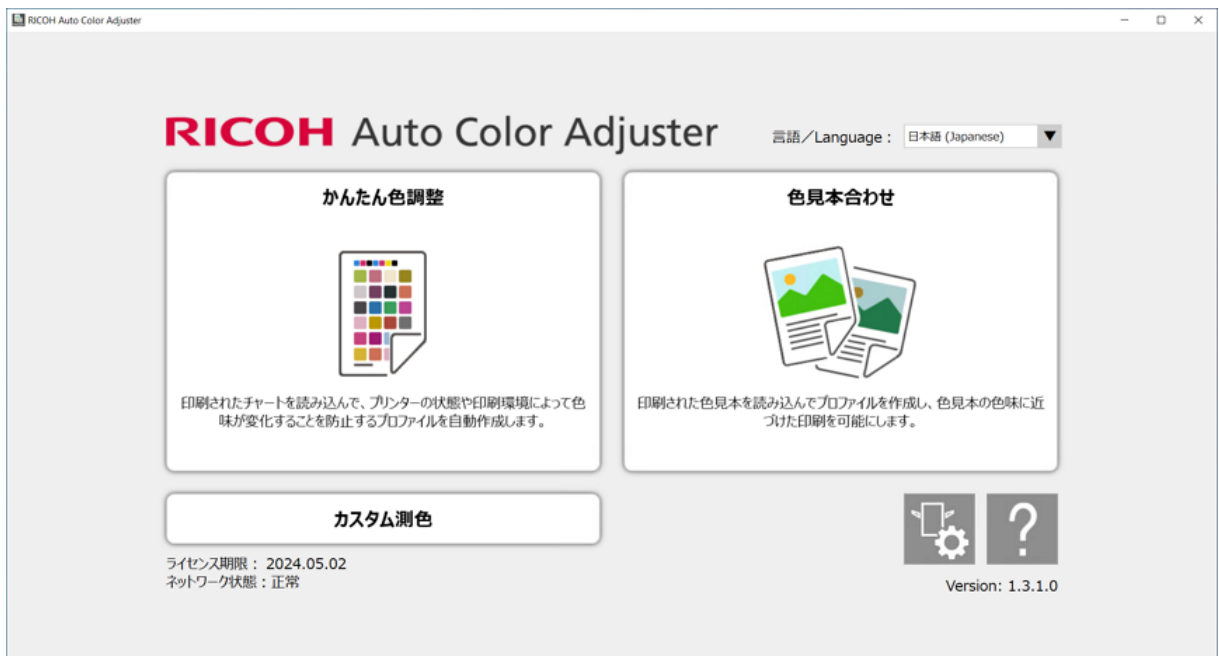
↓ 補足

- [初期設定] と [管理コンソール] は、ネットワーク上のコンピューターからも使用できます。

メニュー画面を表示する

メニュー画面を表示するには、次の手順を実行します。

1. USBケーブルで本機に接続しているコンピューターを起動します。
メニュー画面が表示されます。
2. RICOH Auto Color Adjusterメニュー画面が表示されていない場合は、[RICOH] アイコン () をダブルクリックします。
RICOH Auto Color Adjusterメニュー画面が表示されます。



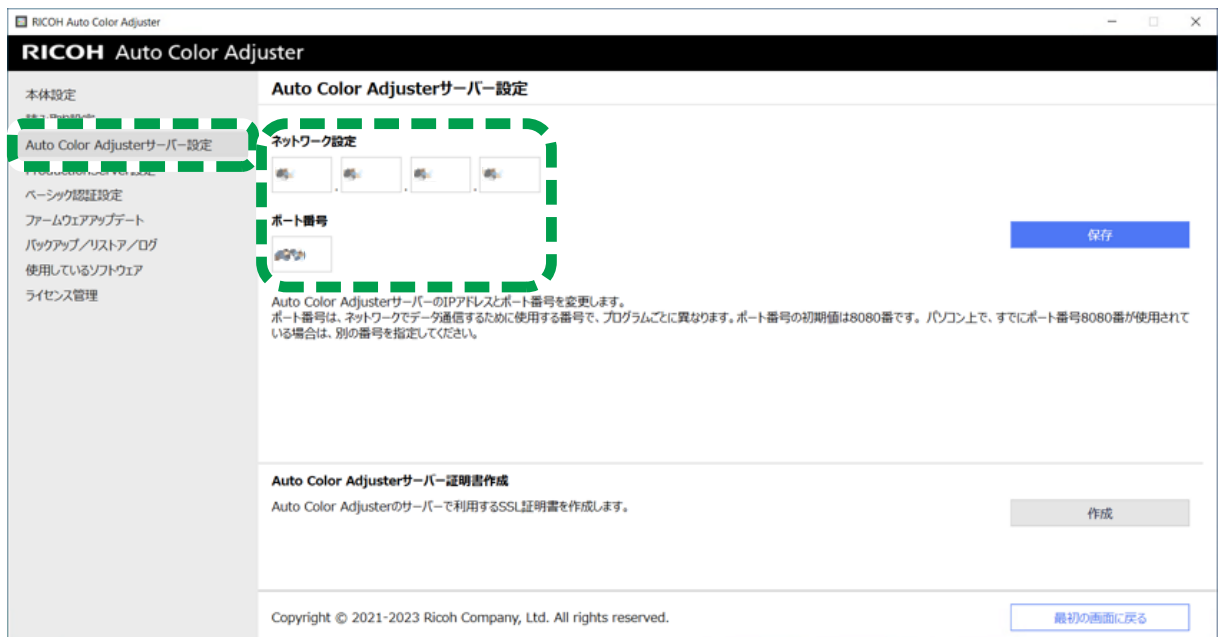
m582om0850

3. メニュー画面の [本体設定] ボタンをクリックします。



m5820m5958

4. IPアドレスとポート番号を確認するには、[Auto Color Adjusterサーバー設定] をクリックします。



m5820m8570

Webブラウザで画面を表示する

Webブラウザで画面を表示するには、次の手順を実行します。

1. USBケーブルで本機に接続しているコンピューターを起動します。
2. サーバーのIPアドレスとポート番号を確認します。

↓ 補足

- 複数台の本機を運用している場合に、1台のクライアントコンピューターを使用しているときは、管理者にサーバーのIPアドレスとポート番号を確認してください。
3. Web ブラウザーを起動します。
 4. アドレスバーにIPアドレスとポート番号を入力します。



↓ 補足

5. ユーザー名とパスワードを入力します。
- 「https:// (IPアドレス): (ポート番号)」の形式で、IPアドレスとポート番号を入力します。コロン (:) とピリオド (.) は省略しないでください。ポート番号が「80」の場合、「:」以降は省略できます。

↓ 補足

- デフォルトのユーザー名とパスワードは次のとおりです。
 - ユーザー名: aca-user
 - パスワード: user

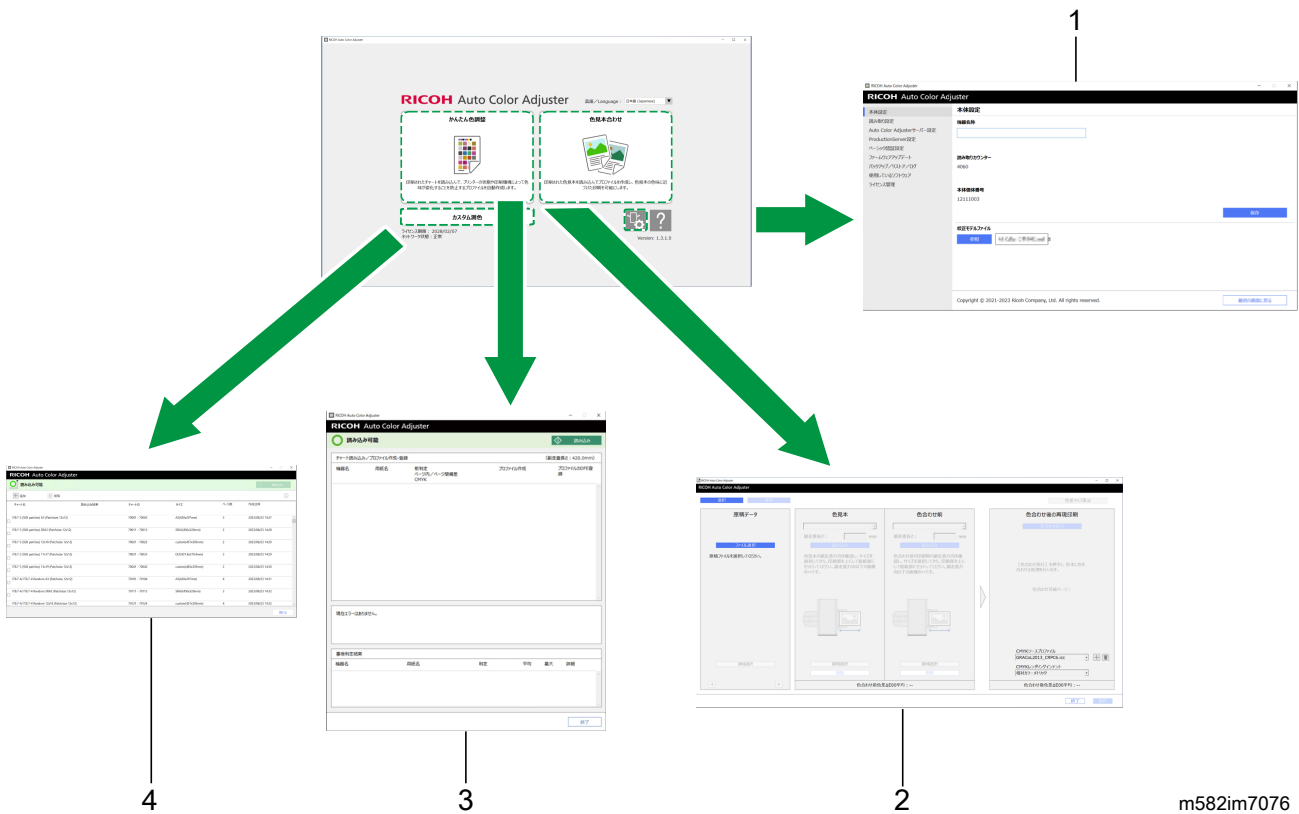
[管理コンソール] 画面が表示されます。

アプリケーションの画面構成

表示された画面で、以下の機能を使用します。

メニュー

[かんたん色調整] (3)、[色見本合わせ] (2)、[カスタム測色] (4)、または [本体設定] (1)を表示します。



↓ 補足

- オンラインマニュアルを表示するには、メニュー画面に表示される [ヘルプ] ボタン (?) をクリックします。

Webブラウザ

[管理コンソール] と [初期設定] を切り替えるには、次の画面右上のボタンのいずれかをクリックします。



M582OM5670

↓ 補足

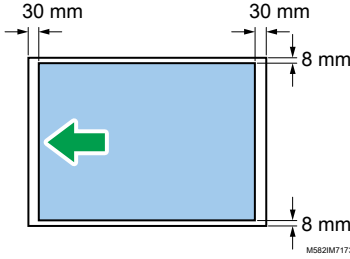
- 画面解像度やブラウザの表示サイズによっては、画面右上の領域が表示されないことがあります。その場合は、画面をスクロールして領域を表示してください。

給紙トレイにチャートをセットする

使用できる用紙のサイズと厚さ

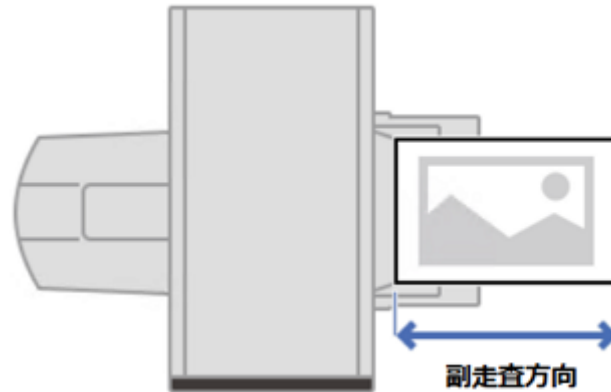
本機では、以下の仕様の用紙を読み込むことができます。

用紙仕様

項目	仕様
種類	上質紙、コート紙、マット紙、アート紙 ↓ 補足 ・ [かんたん色調整] 使用時は、推奨用紙を使用してください。 ・ 詳しくは、「RICOH Auto Color Adjuster：ユーザーガイド」を参照してください。
用紙サイズ：幅	210～330.2mm (8.3～13 inch) [かんたん色調整] 使用時は、297～330.2mm (11.7～13.0 inch)
用紙サイズ：長さ	210～487.7mm (8.3～19.2 inch) [かんたん色調整] 使用時は、420-487.7mm (16.5-19.3 inch)
紙厚	73.3～279.0g/m ² (63～240kg：5×7.4 inch 四六判)
枚数	104g/m ² のグロスコート紙使用時：70枚
読み取り領域	本機は以下の青色の領域を読み取ります。 

↓ 補足

- 事前に用紙の長さ（副走査方向）を指定するには、[本体設定] セクション [読み取り設定] をクリックします。



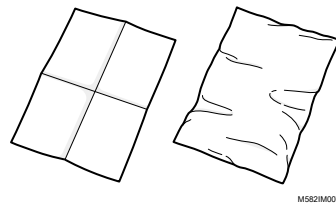
m582om9550_1

- [色見本合わせ] を使用するときには、[色見本合わせ] 画面で、読み取る色見本や原稿に合わせて用紙の長さを指定できます。
- [カスタム測色] を使用するときには、A4 (210 × 297mm、8.27 × 11.69 inch) または Letter (215.9 × 279.4mm、8.5 × 11 inch) からA3 (330.2 × 482.6mm、13 × 19 inch) までのサイズの用紙を使用してください。

使用できない原稿／チャート

下記のような状態の原稿やチャートは本機にセットしないでください。

- ステープラーまたはクリップで綴じられている
- 穴、裂け目、切り欠きがある
- 折れている、しわがある



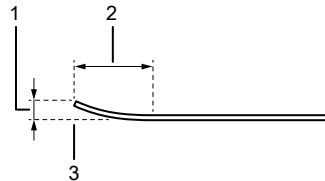
- 別の紙と貼り合わせている
- 粘着テープやのりが付いている
- インデックスタブや付箋などのはみ出た部分がある

★ 重要

- 上記のような状態で原稿やチャートをセットすると、紙詰まりが発生したり、本機が故障したりすることがあります。

カールの大きい原稿／チャート

カールの大きい原稿やチャートを本機にセットする前に、カールを修正してください。
以下の条件を満たすカールのある原稿やチャートは読み込むことができます。



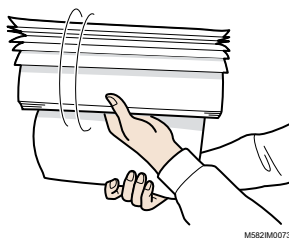
M582IM0174

- | | |
|---|---------------------|
| 1 | 7.5mm (0.3 inch) 以下 |
| 2 | 30mm (3.9 inch) 以上 |
| 3 | 原稿/チャートの先端または後端 |

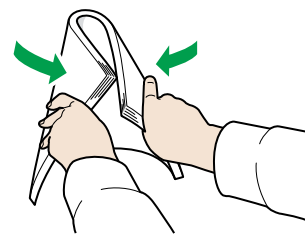
給紙トレイに原稿／チャートをセットする

★重要

- トレイに用紙が何枚か残っているときに、トレイに原稿を追加しないでください。重送の原因となります。
- コート紙やキズが付きやすい用紙に印刷された原稿やチャートを使用すると、用紙の表面にかすれたスジや線状の跡が付くことがあります。
- 複数枚の用紙をまとめてセットするときは、用紙束を十分にあおぐようにほぐし、両端を持ってゆっくりと数回曲げて端をそろえてください。正しく送られない場合は、1枚ずつセットしてください。



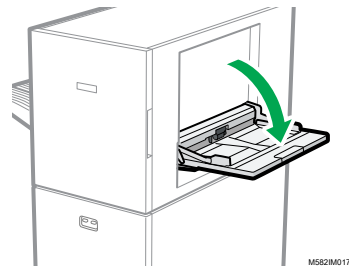
M582IM0073



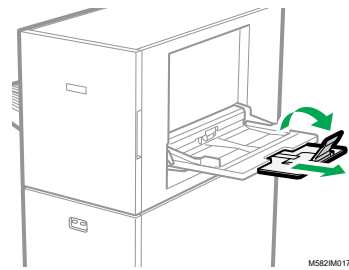
M582IM0074

給紙トレイに原稿やチャートをセットするには、次の手順を実行します。

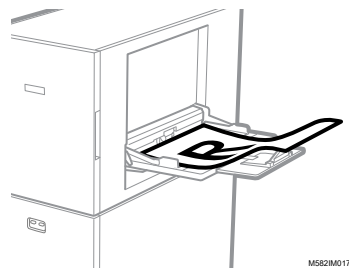
1. 給紙トレイを開けます。



2. トレイの端からはみ出る原稿（縦向きA4サイズより長いサイズ）をセットするときは、延長トレイを引き出してください。

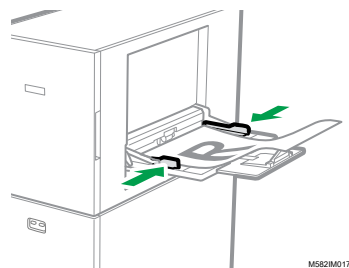


3. 読み取り面を上にして用紙を軽く差し込みます。



↓ 補足

- 上限表示 (≡) を超えないように原稿をセットします。上限表示を超えて原稿をセットすると、斜めに読み取られたり、紙詰まりの原因となります。
4. 用紙ガイド版を調整して用紙サイズに合わせます。



4. かんたん色調整

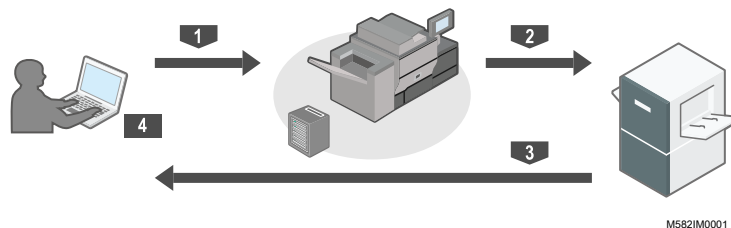
- かんたん色調整の流れ
- かんたん色調整を実行する

チャートを読み込んで、プロファイルを自動作成します。作成したプロファイルを出力プロファイル（プリンタープロファイル）としてDFEに登録し、原稿データの印刷時に使用します。

この機能を定期的に使用して本機の状態や印刷環境の変化による印刷物の色への影響を防ぎます。

また、色調整後や定期的ごとに〔初期〕設定で選択した基準の許容値内の色で印刷されているかを判断できます。

かんたん色調整の流れ



色調整を実行するには、次の手順を実行します。

1. プリンターでプロファイル作成用チャートを印刷し、色を調整します。
2. プロファイル作成用チャートを本機にセットします。
3. 〔かんたん色調整〕を使用してチャートを読み取ります。
4. プロファイルが作成され、DFEに登録されます。

色判定を実行するには、次の手順を実行します。

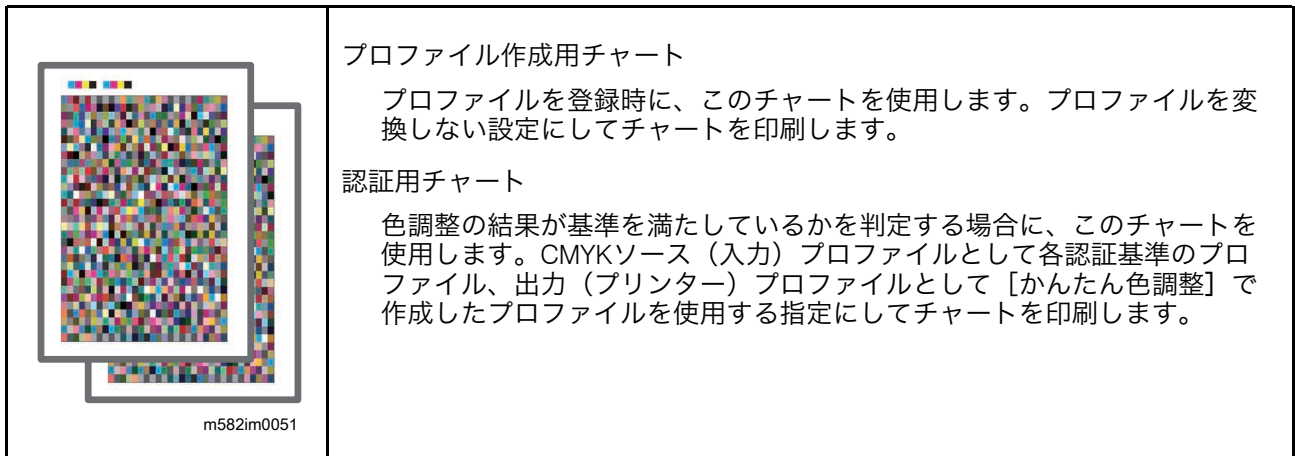
1. プリンターで認証用チャートを印刷し、色を調整します。
2. 認証用チャートを本機にセットします。
3. 〔かんたん色調整〕を使用してチャートを読み取ります。
4. 結果を確認します。

チャートについて

〔かんたん色調整〕では、カラーチャートを使用してプリンターで再現可能な色を判定します。

〔かんたん色調整〕を実行するたびに、チャート作成用のPDFが印刷されます。PDFは、管理者が初期設定を行うときに、プリンターと用紙種類の組み合わせごとに割り当てられます。割り当てられたPDFファイル名は〔初期設定〕の〔詳細情報〕で確認します。本機は、チャート上部に印刷されているカラーコードを使用して指定したプリンターと用紙の組み合わせを識別し、チャート上のパッチを測色してプリンターの状態を判定します。

チャートには以下の2種類があります。



プロファイル作成用チャート

プロファイルを登録時に、このチャートを使用します。プロファイルを変換しない設定にしてチャートを印刷します。

認証用チャート

色調整の結果が基準を満たしているかを判定する場合に、このチャートを使用します。CMYKソース（入力）プロファイルとして各認証基準のプロファイル、出力（プリンター）プロファイルとして [かんたん色調整] で作成したプロファイルを使用する指定にしてチャートを印刷します。

↓ 補足

- PDFは、目的に合わせて印刷設定を変更して印刷してください。

4

プロファイル登録時の注意事項

色調整で作成したプロファイルをDFEに登録して使用します。

プロファイルの登録手順は、[初期設定] の [DFE 種別] の設定によって異なります。詳しくは、「RICOH Auto Color Adjuster : インストールガイド」を参照してください。

★ 重要

- 色調整を行う前に、プロファイルを手動でDFEに登録する必要があるか確認してください。
- [DFE 種別] にDFE名が指定されているとき：プロファイルは自動でDFEに登録されます。ユーザーの操作は不要です。また、Fieryを使用しているときは、[初期設定] の [用紙追加] 画面に登録されている [キャリブレーションセット名] にプロファイルが割り当てられます。
- [DFE 種別] に [その他] を指定しているとき：コンピューターに保存されているプロファイルを手動でDFEに登録します。操作について詳しくは、DFEの取扱説明書を参照してください。

プロファイルは、[初期設定] の [その他の設定] をクリックすると表示される [プロファイルの保存] に指定したフォルダーに保存されます。詳しくは、「RICOH Auto Color Adjuster : インストールガイド」を参照してください。

★ 重要

- 本機に接続されているコンピューターにインストールされているFiery Command Workstation またはColorGATE Productionserver はアップデートしないでください。アップデートにより動作環境が変更すると、プロファイルが自動で登録されなくなることがあります。

色調整と色判定を実行するとき

大量印刷の前やプリンターのメンテナンスや画質調整をした後は、以下のように「色調整」または「色判定」を実行してください。

- 「色調整」をしていないとき：「色調整」を行います。
- 「色調整」をすでに行っているとき（プロファイルが作成されて登録されているとき）：「色判定」を行います。ただし、「色判定」で、[NG]と判定されたときは、「色調整」を実行してから、「色判定」を再度実行してください。

かんたん色調整を実行する

[かんたん色調整] を使用して、プリンターで色調整を実行して色判定します。

操作前の注意事項

- 事前に画像濃度調整を実行しておくことを推奨します。
- 色調整するプリンター：印刷した画像濃度が正常で、エラーが発生していないこと。
[初期設定] に登録された用紙がセットされていることを確認してください。
- 本機：赤色ランプが点灯していないこと。
- 本機に接続したコンピューター：RICOH Auto Color Adjuster のメニュー画面が表示されていること。また、ColorGATE Productionserverが起動し、実行中であること。
詳しくは、P.19 「RICOH Auto Color Adjuster アプリケーションを使用する」を参照してください。
- Fiery コントローラーで [かんたん色調整] 機能を使用するには、Fiery Command Workstation の言語を英語または日本語に設定してください。

PDFファイルを準備する

色調整を実行するプリンターと用紙の組み合わせごとに割り当てられたチャート用PDFファイル名は、[初期設定] の [詳細情報] で確認できます。



PDFファイルは、「C:\¥RicohAutoColorAdjuster¥ReferenceChart¥profile_A3」フォルダーに保存されています。101以上のチャートを登録しているときは、付属のUSBフラッシュメモリー内のqcaフォルダーのchartPDF_Profile.zipを解凍します。詳しくは、「RICOH Auto Color Adjuster：インストールガイド」参照してください。

↓ 補足

- チャートを印刷するときは、以下の設定に一致する用紙を使用し、印刷設定で用紙を正しく指定してください。
 - [読み取り設定] 画面で [かんたん色調整] に指定したサイズ of 用紙
 - [初期設定] 画面の [紙種] に指定した用紙と同じ用紙
 設定について詳しくは、「RICOH Auto Color Adjuster：インストールガイド」を参照してください。
- 色判定で合否を判定するために、チャートは以下の用紙で印刷することを推奨します。

「認証確認用パッチレイアウト」で選択した色検証の検証基準	[Japan Color Digital 2011 Coated, Wedge]	[ISO12647-8 Coated V3 F51]
推奨用紙	<ul style="list-style-type: none"> – 王子製紙 OK トップコート+ – 大王製紙 S ユトリロコート – 日本製紙 オーロラコート – 中越パルプ工業 雷鳥コート – 北越製紙 ミューコートネオス – 三菱製紙 パールコートN 	UPM Digi Finesse gloss (250 gsm)

- チャートは10部ほど印刷し、最後に印刷した1部を使用してください。

色調整を実行する

本機でチャートを読み込んでDFEに作成したプロファイルを登録することで、プリンターで印刷される色を調整します。

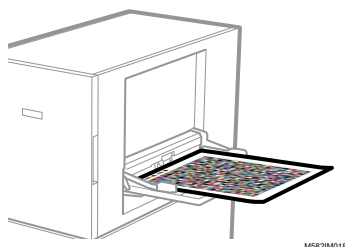
色調整をするには、次の手順を実行します。

1. Fiery Command Workstation または TotalFlow プリントサーバー の操作画面で、プロファイル作成用チャートの PDF ファイルを印刷します。

★ 重要

- 両面印刷は指定しないでください。
 - 安定した色を出力するために、チャートを10部印刷します。最後に印刷されたプロファイル作成用チャートの1部を使用してください。
1. 色調整をするプリンターを選択します。
 2. 印刷設定に必要な指定をして原稿データを印刷します。印刷設定については、P. 35 「Fieryを使用して色調整用のチャートPDFファイルを印刷する」 または P. 36 「TotalFlow プリントサーバーを使用して色調整用のチャートPDFファイルを印刷する」を参照してください。
 3. Fieryを使用しているときは、印刷ジョブをジョブアーカイブに登録しておく、チャートのインポートを省略できます。

4. TotalFlow プリントサーバー を使用しているときは、ジョブを保存済みジョブとして残しておくと、チャートのインポートを省略できます。
2. 最後に印刷されたプロファイル作成用チャートの1部を取ります。
3. プロファイル作成用チャートの印刷面を上にして本機にセットします。



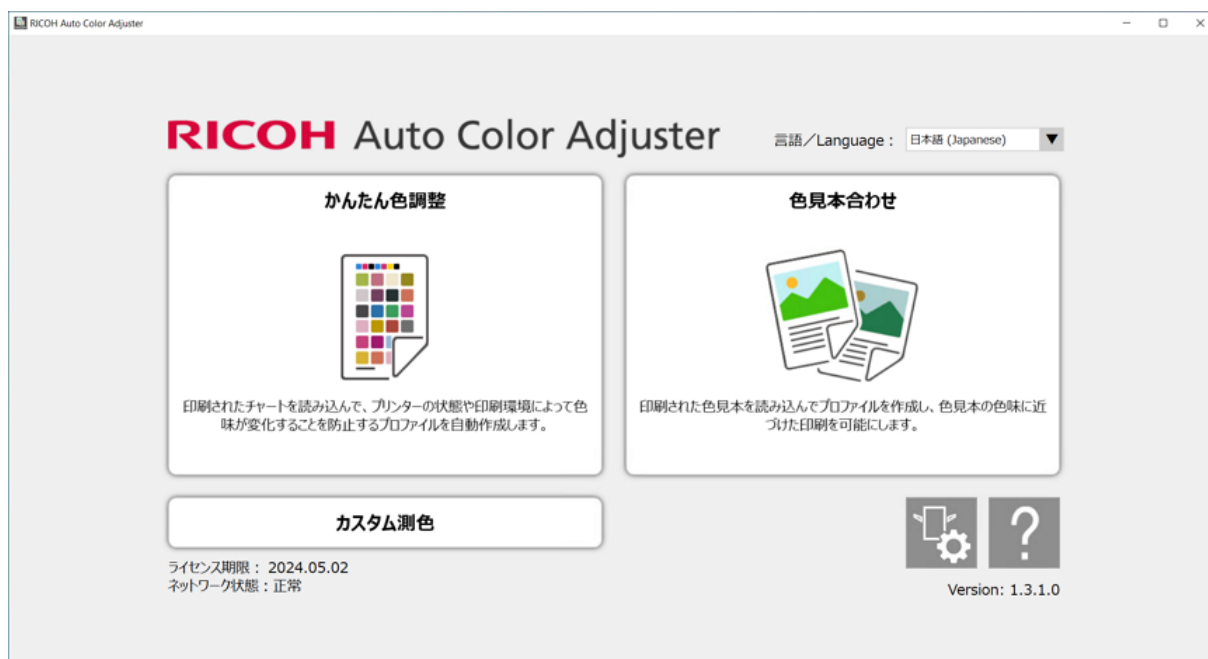
詳しくは、P.26 「給紙トレイに原稿/チャートをセットする」を参照してください。

4. コンピューターのタスクバーで [RICOH] アイコン () をクリックします。

↓ 補足

- 「Productionserver」画面を閉じないでください。

5. [かんたん色調整] をクリックします。

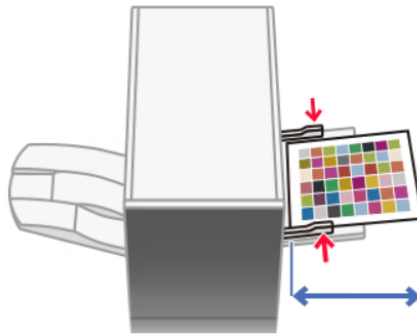


m582om0850

6. かんたん色調整ダイアログで、[読み込み] をクリックします。
7. 読み取りチャートダイアログで、[読み取り開始] をクリックします。

チャート読み取り

給紙部にチャートを上向きにセットし、[読み取り開始]を押してください。
指定の副走査長さは、420.0mmです。



キャンセル

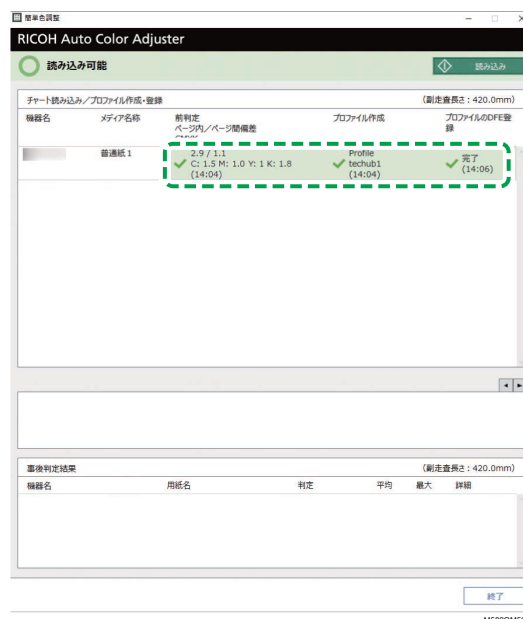
読み取り開始

m582om0660

本機でプロファイル作成用チャートの読み取りが開始され、プロファイルが自動で作成されます。

★重要

- 画面に「Command WorkStation (TM) または TotalFlow が動作中です。」 「マウス、キーボードに触らないでください。」 のメッセージが表示されている間は、コンピューターを操作しないでください。
8. [前判定]、[プロファイル作成]、[プロファイルのDFE登録] にチェックマークが表示されていることを確認します。



9. 手順8で判定に失敗したことを示すメッセージが表示された場合は、手順1からやり直してください。

↓ 補足

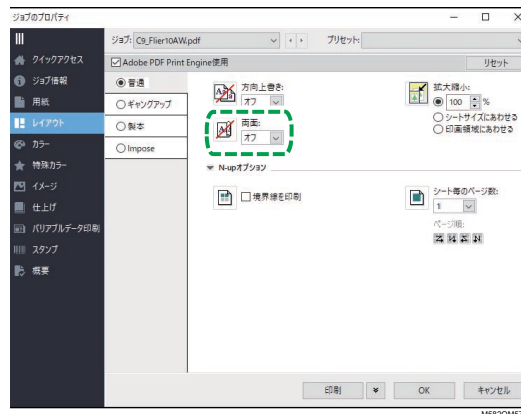
- 必ず正しいチャートを印刷し、本機に正しくセットしてください。
- 手順8でエラー基準に関するメッセージが表示された場合は、指示に従ってプリンターを調整してください。詳しくは、「RICOH Auto Color Adjuster：ユーザーガイド」を参照してください。
 - 〔終了〕をクリックします。
 - プロファイルの自動登録に対応していないDFEを使用している場合は、保存されているプロファイルを手動でDFEに登録します。

Fieryを使用して色調整用のチャートPDFファイルを印刷する

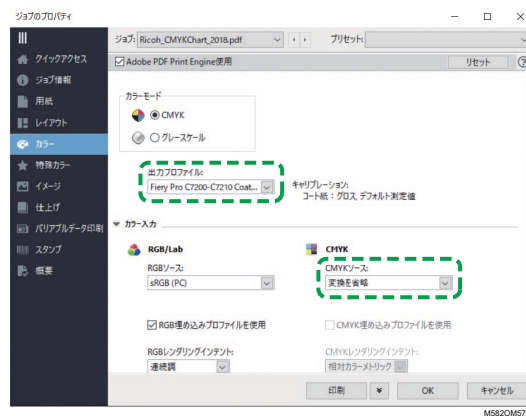
安定した色を出力するために、チャートを10部印刷します。最後に印刷されたプロファイル作成用チャートの1部を使用してください。

Fieryを使用して、色調整用のカラーPDFファイルを印刷するには、次の手順を実行します。

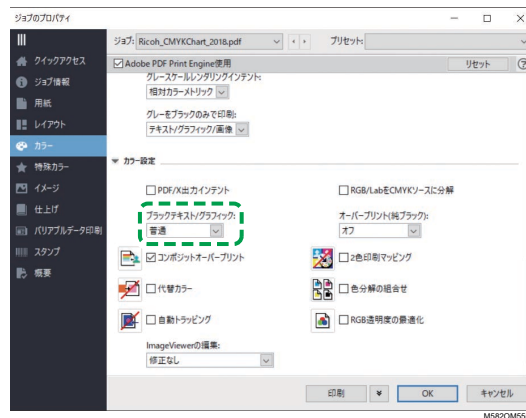
- 〔初期設定〕の〔チャート追加／編集〕画面の〔用紙名〕に指定されている用紙を給紙トレイにセットします。
- 〔用紙〕セクションでは、〔Paper Catalog〕を選択するか、手動で〔用紙種類〕、〔坪量〕、〔用紙サイズ〕を指定します。
- 〔レイアウト〕セクションで、〔両面〕を〔オフ〕に設定します。



- 〔カラー〕セクションでは、〔初期設定〕の〔チャート追加／編集〕画面に登録されている〔認証確認用パッチレイアウト〕に割り当てられた〔出力プロファイル〕を指定します。ただし、〔認証確認用パッチレイアウト〕で〔Simple Gray Scale, Wedge 2013〕を指定しているときは、〔Verify GRACoL2013, Wedge〕を指定してください。



5. [CMYKソース] を [変換を省略] に設定します。
6. [ブラックテキスト/グラフィック] を [普通] に設定します。

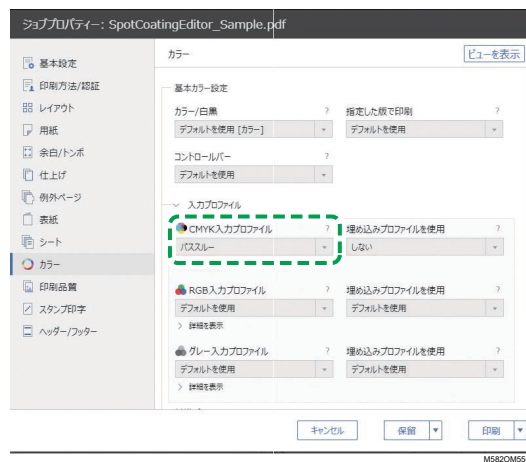


TotalFlow プリントサーバーを使用して色調整用のチャートPDFファイルを印刷する

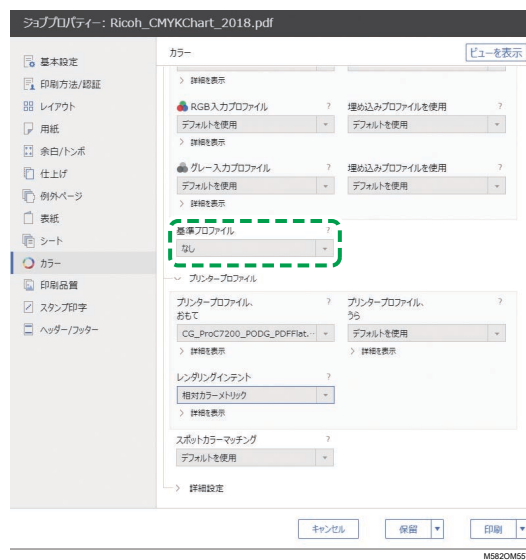
安定した色を出力するために、チャートを10部印刷します。最後に印刷されたプロファイル作成用チャートの1部を使用してください。

TotalFlow プリントサーバーを使用して、色調整用のカラーPDFファイルを印刷するには、次の手順を実行します。

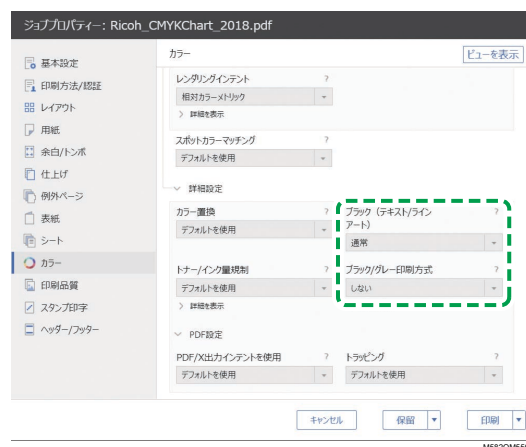
1. [初期設定] の [チャート追加/編集] 画面の [用紙名] に指定されている用紙を給紙トレイにセットします。
2. [用紙] セクションで、[Paper catalog] をクリックして、用紙リストから用紙を選択します。用紙の [種類]、[サイズ]、[坪量] を手動で指定するには、[手動用紙] をクリックします。
3. [カラー] セクションで、[CMYK入力プロファイル] を [パススルー] に設定します。



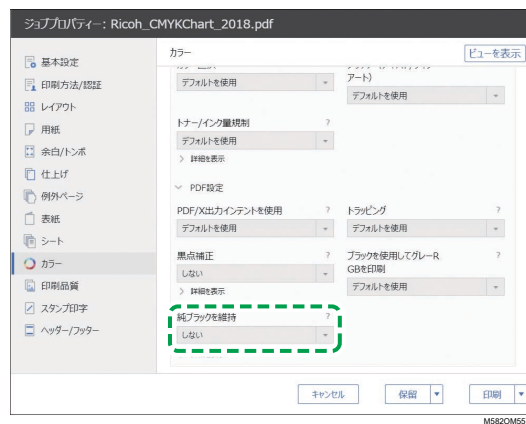
4. [基準プロファイル] を [なし] に設定します。



5. [ブラック (テキスト/ラインアート)] を [通常] に設定します。



6. [PDFジョブプロセッサ (RIP)] が SCREEN APPE/Kodak APPE/CPSI のとき、
[ブラック/グレー印刷方式] を [しない] に設定します。
7. [PDFジョブプロセッサ (RIP)] が Heidelberg APPE のとき、
[純ブラックを維持] を [しない] に設定します。



8. [印刷品質] セクションで、[PDFジョブプロセッサ (RIP)] が SCREEN APPE/ Kodak APPE のとき、[CMYKオーバープリントシーケンス] を [カラー変換後] に設定します。



色判定を実行する

色調整の結果を判定したり、指定したプリンターの状態を確認したりできます。

色判定を実行するには、次の手順を実行します。

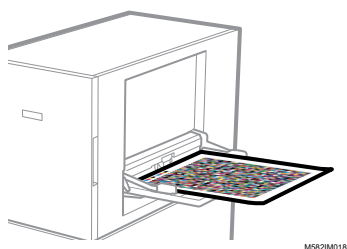
1. Fiery Command Workstation または TotalFlow プリントサーバー の操作画面で、判定用のチャートの PDF ファイルを印刷します。

★重要


- 両面印刷は指定しないでください。
- 安定した色を出力するために、チャートを10部印刷します。最後に印刷されたプロファイル作成用チャートの1部を使用してください。

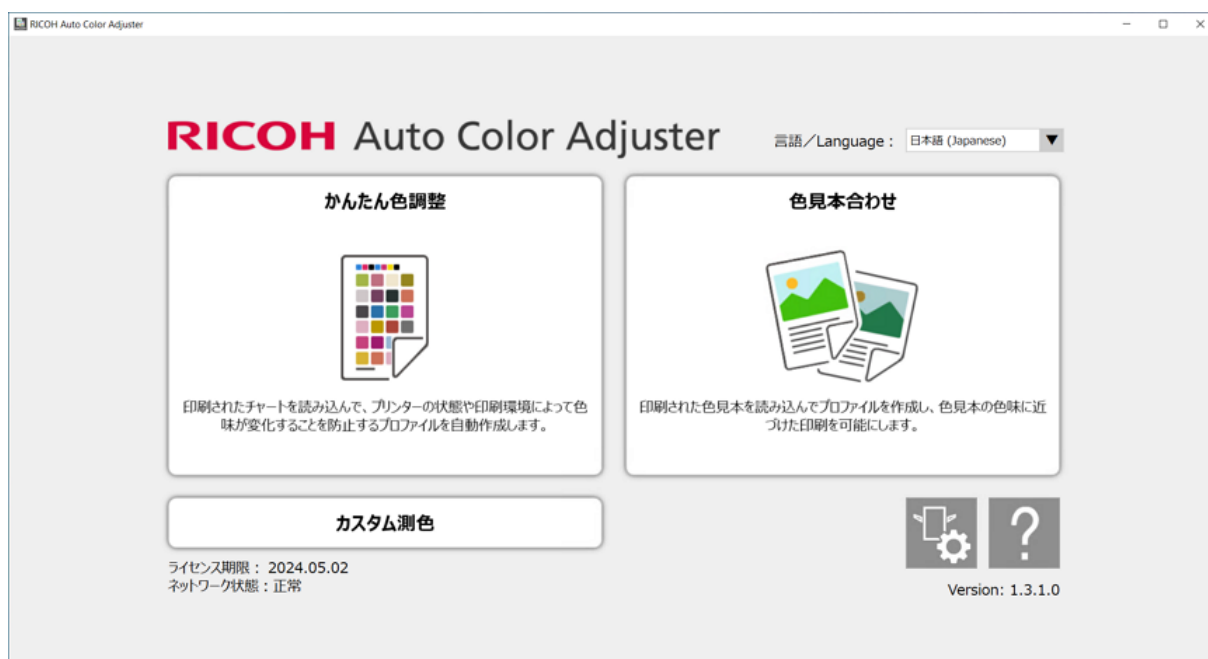
1. 色判定を実行するプリンターを選択します。

2. 印刷設定に必要な指定をして原稿データを印刷します。印刷設定については、P. 41 「Fieryを使用して色判定用チャートPDFファイルを印刷する」またはP. 43 「TotalFlow プリントサーバーを使用して色判定用チャートPDFファイルを印刷する」を参照してください。
 3. Fieryを使用しているときは、印刷ジョブをジョブアーカイブに登録しておくこと、チャートのインポートを省略できます。
 4. TotalFlow プリントサーバーを使用しているときは、ジョブを保存済みジョブとして残しておくこと、チャートのインポートを省略できます。
 5. 処理完了後は、RIP処理済みデータを保持しない指定にしてください。
2. 最後に印刷されたプロファイル作成用チャートの1部を取ります。
 3. 判定用チャートの印刷面を上にして本機にセットします。



詳しくは、P. 26 「給紙トレイに原稿／チャートをセットする」を参照してください。

4. コンピューターのタスクバーで [RICOH] アイコン () をクリックします。
- ↓ 補足
- 「Productionserver」画面を閉じないでください。
5. [かんたん色調整] をクリックします。



m582om0850

6. かんたん色調整ダイアログで、[読み込み] をクリックします。
7. 読み取りチャートダイアログで、[読み取り開始] をクリックします。



m582om0660

認証用チャートが読み取られ、読み取り結果が検証されます。

8. [色判定結果] を確認します。



9. [NG] が表示された場合、判定後の詳細を確認するには、[詳細] ボタンをクリックします。

↓ 補足

- 画面の各項目について詳しくは、「RICOH Auto Color Adjuster : ユーザーガイド」を参照してください。

10. [NG] が表示された場合、印刷設定が正しく指定され、用紙が指定された規格に準拠していることを確認してから、[かんたん色調整] を再実行してください。
11. [終了] をクリックします。
色調整結果の色判定が完了しました。

↓ 補足

- 色判定で表示される色差や判定結果（[OK] / [NG]）は、別の色度測定器を使用した場合と異なることがあります。
- [管理コンソール] で時間の経過による色の変化を確認できます。詳しくは、P.69「[管理コンソール](#)」を参照してください。
- メッセージが表示された場合は、「RICOH Auto Color Adjuster：ユーザーガイド」を参照してください。

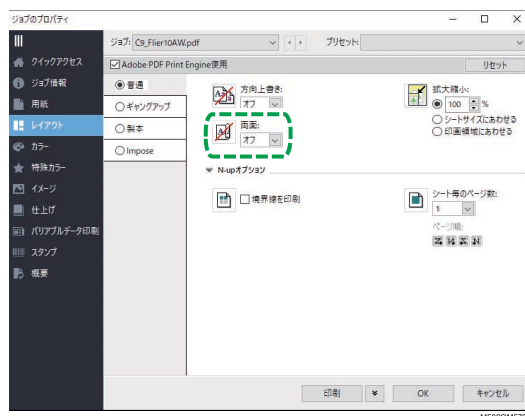
Fieryを使用して色判定用チャートPDFファイルを印刷する

4

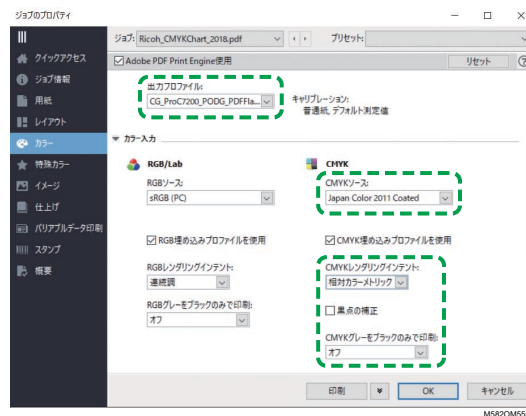
安定した色を出力するために、チャートを10部印刷します。最後に印刷されたプロファイル作成用チャートの1部を使用してください。

Fieryを使用して色判定用チャートPDFファイルを印刷するには、次の手順を実行します。

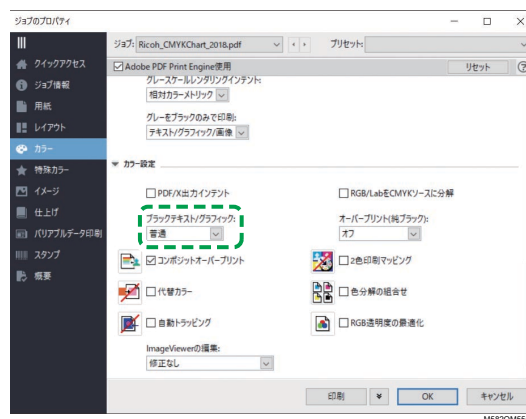
1. [初期設定] の [チャート追加／編集] 画面の [用紙名] に指定されている用紙を給紙トレイにセットします。
2. [用紙] セクションで、[Paper Catalog] を選択するか、手動で [用紙種類]、[坪量]、[用紙サイズ] を指定します。
3. [レイアウト] セクションで、[両面] を [オフ] に設定します。



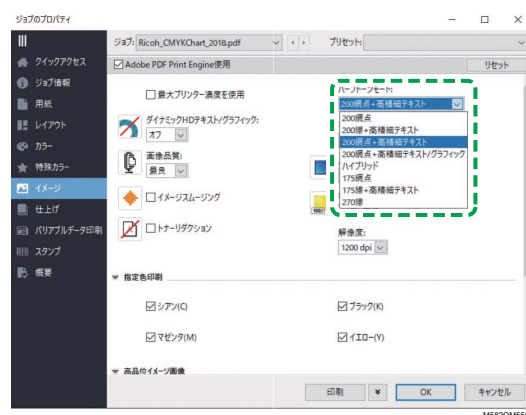
4. [カラー] セクションで、色調整プロセスで作成される [出力プロファイル] を選択します。



5. [初期設定] の [チャート追加/編集] 画面の [認証確認用パッチレイアウト] に指定したプロファイルに [CMYK ソース] を設定します。
6. [CMYKレンダリングインテント] を [相対カラーメトリック] に設定します。
7. [黒点補正] のチェックを外します。
8. [CMYKグレーをブラックのみで印刷] を [オフ] に設定します。
9. [ブラックテキスト/グラフィック] を [普通] に設定します。



10. [ハーフトーンモード] には、[初期設定] で指定した出力プロファイルを作成したときと同じ設定を指定します。

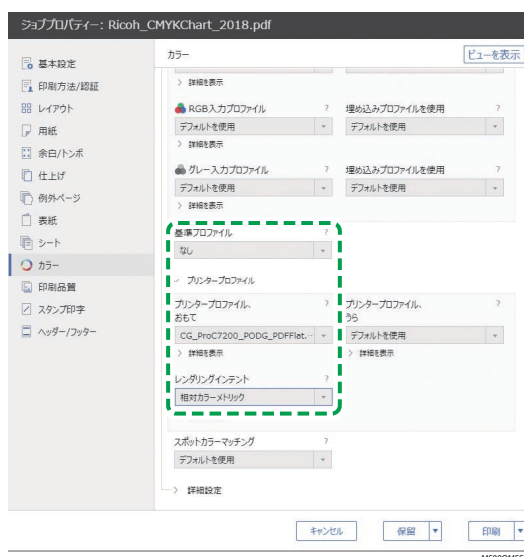


TotalFlow プリントサーバーを使用して色判定用チャートPDFファイルを印刷する

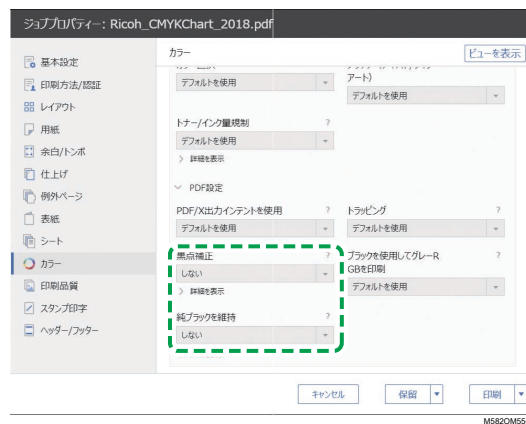
安定した色を出力するために、チャートを10部印刷します。最後に印刷されたプロファイル作成用チャートの1部を使用してください。

TotalFlow プリントサーバーを使用して色判定用チャートPDFファイルを印刷するには、次の手順を実行します。

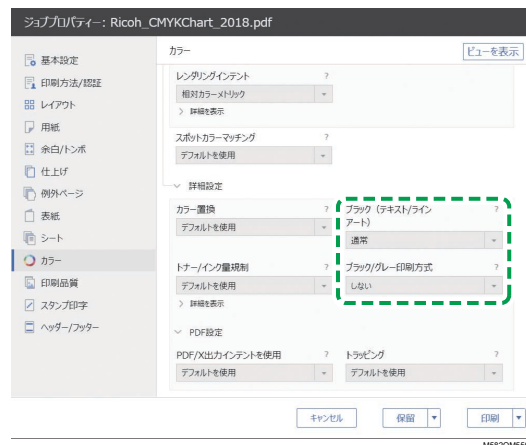
1. [初期設定] の [チャート追加/編集] 画面の [用紙名] に指定されている用紙を給紙トレイにセットします。
2. [用紙] セクションで、[Paper catalog] をクリックして、用紙リストから用紙を選択します。用紙の [用紙種類]、[用紙サイズ]、[坪量] を手動で指定するには、[手動用紙] をクリックします。
3. [カラー] セクションで、[CMYK入力プロファイル] を [初期設定] の [チャート追加/編集] 画面の [認証確認用パッチレイアウト] に指定されているプロファイルに設定します。
4. [基準プロファイル] を [なし] に設定します。



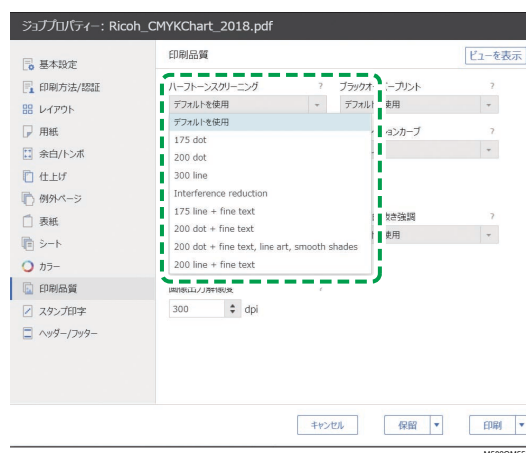
5. [プリンタープロファイル、おもて] を色調整で作成された出力プロファイルに設定します。
6. [レンダリングインテント] を [相対カラーメトリック] に設定します。
7. [PDF ジョブプロセッサ (RIP)] が Heidelberg APPE のとき、[黒点補正] を [しない] に設定します。



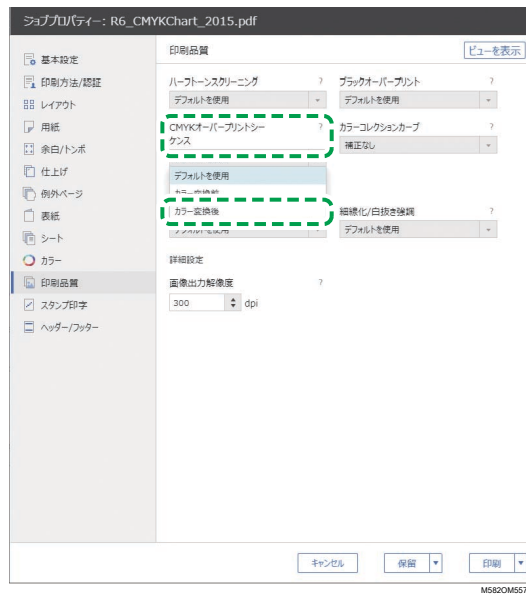
8. [PDF ジョブプロセッサ (RIP)] が Heidelberg APPE のとき、[純ブラックを維持] を [しない] に設定します。
9. [ブラック (テキスト/ラインアート)] を [通常] に設定します。



10. [PDFジョブプロセッサ (RIP)] が SCREEN APPE/Kodak APPE/CPSI のとき、[ブラック/グレー印刷方式] を [しない] に設定します。
11. [印刷品質] セクションで、[ハーフトンスクリーニング] を、[初期設定] で指定された出力プロファイルを作成したときと同じ設定にします。



12. [PDFジョブプロセッサ (RIP)] が SCREEN APPE のとき、[CMYKオーバープリントシーケンス] を [カラー変換後] に設定します。



5. 色見本合わせ

- 色見本合わせの流れ
- 色見本合わせを実行する
- 色見本合わせを応用する

色見本合わせでは、印刷された色見本を読み込んで、それを基にプロファイルを作成します。作成されたプロファイルをCMYK入力（ソース）プロファイルとしてDFEに登録し、原稿データの印刷時に使用します。

作成したプロファイルを使用して、色見本の色味に近づけた色を印刷ページに再現します。

色見本合わせの流れ

準備するもの

原稿データ（PDF）	印刷した色見本	原稿データ（PDF）を印刷したものの
 m582im0091	 m582im0092	 m582im0093

5

保存された原稿データと色見本データがある場合、色見本合わせを実行するには、次の手順を実行します。

1. 原稿データと色見本を読み込みます。

[選択] を選択し、保存された原稿データと色見本データが入っているフォルダーを選択し、原稿PDFと読み取った色見本をアプリケーションに表示します。

2. 原稿データを読み取ります。

印刷した原稿を本機で読み取り、アプリケーションで表示します。

3. 色合わせを実行します。

原稿データを印刷したときと同じ設定を指定して色合わせを実行します。



m582om7078_1

保存された原稿データと色見本データがない場合、色見本合わせを実行するには、次の手順を実行します。

1. 原稿データを表示します。
PDFを選択して表示します。
2. 色見本を読み取ります。
本機で色見本を読み取り、アプリケーションで表示します。
3. 原稿データを読み取ります。
印刷した原稿を本機で読み取り、アプリケーションで表示します。
4. 色合わせを実行します。
原稿データを印刷したときと同じ設定を指定して色合わせを実行します。



m582om7078

5

領域と向きを指定する

〔原稿データ〕セクションで、〔領域選択〕をクリックし、画像の領域と向きを指定して、色合わせを実行します。



面付けされた原稿データがページごとに印刷されていて色合わせをするときは、すべてのページに同じ領域と向きを指定すると、色再現性の品質が向上します。また、〔位置合わせエラー〕が表示されたときは、領域を指定して位置を合わせます。

複数ページの原稿データを使用する

最大15ページの原稿を使用して、色の再現性の品質を高くします。〔原稿データ〕(1)下部の〔次へ〕ボタン (▶) と〔前へ〕ボタン (◀) を使用して、ページを切り替え、〔色見本〕(2)の各ページで〔色合わせ前〕(3)の手順を繰り返します。

プロファイルを使用する

原稿データを納品用に本番印刷する場合は、データの印刷中に〔色見本合わせ〕で作成したプロファイルを印刷設定で指定します。印刷設定は、使用しているDFEによって異なります。

- FieryまたはTotalFlow プリントサーバーを使用するときは、P. 60 「Fieryでプロファイルを使用して原稿データを印刷する」またはP. 61 「TotalFlow プリントサーバーでプロファイルを使用して原稿データを印刷する」を参照してください。
- 他のDFEを使用しているときは、製品の取扱説明書を参照してください。

色見本合わせに対応している原稿データ

使用できる原稿データ

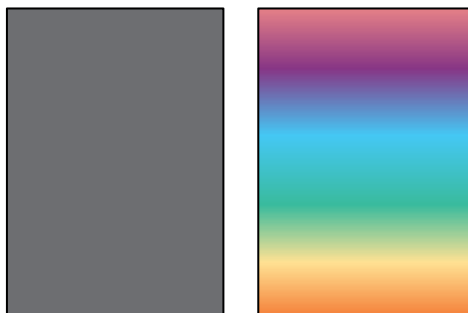
【色見本合わせ】は、以下のすべての条件に一致する原稿データに対応しています。

- 原稿データの印刷に使用したプリンターに対応しているデータ形式
- CMYK
 - ↓ 補足
 - 判定後の詳細を確認するには、【詳細】ボタンをクリックします。
- 以下のいずれかのバージョンのPDFファイル
 - PDF1.3 (Acrobat 4.x) ~PDF1.6 (Acrobat 7.x)
 - PDF1.7、Adobe Extension Level 3 (Acrobat 9.x)
 - PDF1.7、Adobe Extension Level 8 (Acrobat X)
 - PDF/X-1a
 - PDF/X-3
 - PDF/X-4
- フォントが埋め込まれているPDFファイル

色見本合わせに適さない画像

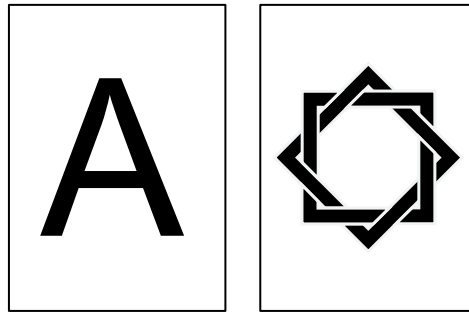
上記の条件を満たしていても、以下のような画像は色見本合わせができません。

- 全体がベタ塗りや、グラデーションやエッジのない画像



MSB2IM0193

- 線対称または回転対称の絵柄の画像



MS20A0194

- 繰り返し同じ画像が面付けされているとき
- 文字と線画が多いページ
- 特定の色系の配色が主体など、極端な配色のページ
- 全体が細かい模様ページ
- 画面サイズが小さいとき

5

色見本合わせを実行する

この機能では、印刷した色見本の色に原稿の色を合わせながら、原稿データを用紙に印刷します。ここでは、1ページの原稿データを色合わせするときの基本操作について説明します。

操作前の注意事項

- 事前に画像濃度調整を実行しておくことを推奨します。
- プリンター：原稿データで指定されているサイズ用の紙がセットされていて、エラーが発生していないこと。
- 本機：赤色ランプが点灯していないこと。
- 本機に接続したコンピューター：RICOH Auto Color Adjuster のメニュー画面が表示されていて、他のアプリケーションが実行していないこと。
詳しくは、P.19 「RICOH Auto Color Adjuster アプリケーションを使用する」を参照してください。
- 原稿データ：[色見本合わせ] で使用できるデータ
詳しくは、P.50 「色見本合わせに対応している原稿データ」を参照してください。
- 印刷された色見本：色見本が原稿データで指定されているサイズと同じサイズで印刷されていること。

色見本合わせのデータを準備する

原稿データを選択し、本機で色見本と印刷原稿を読み込んで、[色見本合わせ] 画面に表示します。

↓ 補足

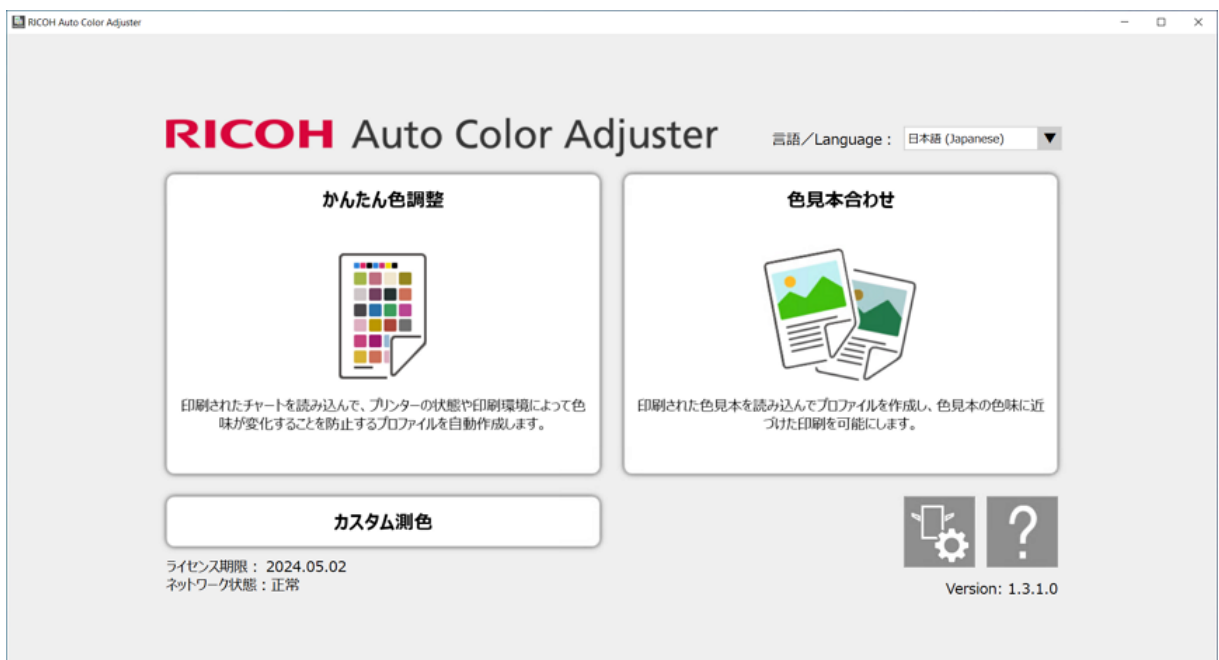
- 原稿データ（PDF）を複数部印刷し、最後に印刷された1部を使用します。

色見本合わせに必要なデータを準備するには、次の手順を実行します。

1. 原稿データ（PDF）を印刷します。
 1. 色合わせを実行するプリンターを選択します。
 2. 印刷設定に必要な指定をして原稿データを印刷します。印刷設定については、P. 54 「Fieryを使用して色合わせ用PDFファイルを印刷する」またはP. 55 「TotalFlow プリントサーバーを使用して色合わせ用PDFファイルを印刷する」を参照してください。

★ 重要

- 印刷時は原稿データの拡大や縮小はしないでください。
2. コンピューターで [色見本合わせ] を選択します。



m582om0850

[色見本合わせ] 画面が表示されます。

↓ 補足

- 画面に表示されている項目を左から右に操作します。
3. 保存された原稿データと色見本があれば、それらを読み込みます。
 1. 保存された原稿データと色見本を読み込むには、[選択] を選択します。
 2. [フォルダー選択] ダイアログで、原稿データと読み取った色見本データを含むファイルを選択します。
 3. [フォルダーの選択] をクリックします。
原稿ファイルと色見本が [色見本合わせ] ダイアログに表示されます。
 4. 保存した色見本がない場合は、読み取ります。

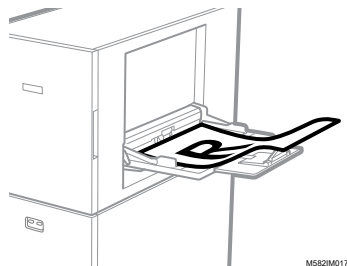
1. [原稿データ] セクションで [ファイル選択] をクリックします。
2. [原稿データを選択] ダイアログで、原稿データを含むファイルを選択します。

↓ 補足

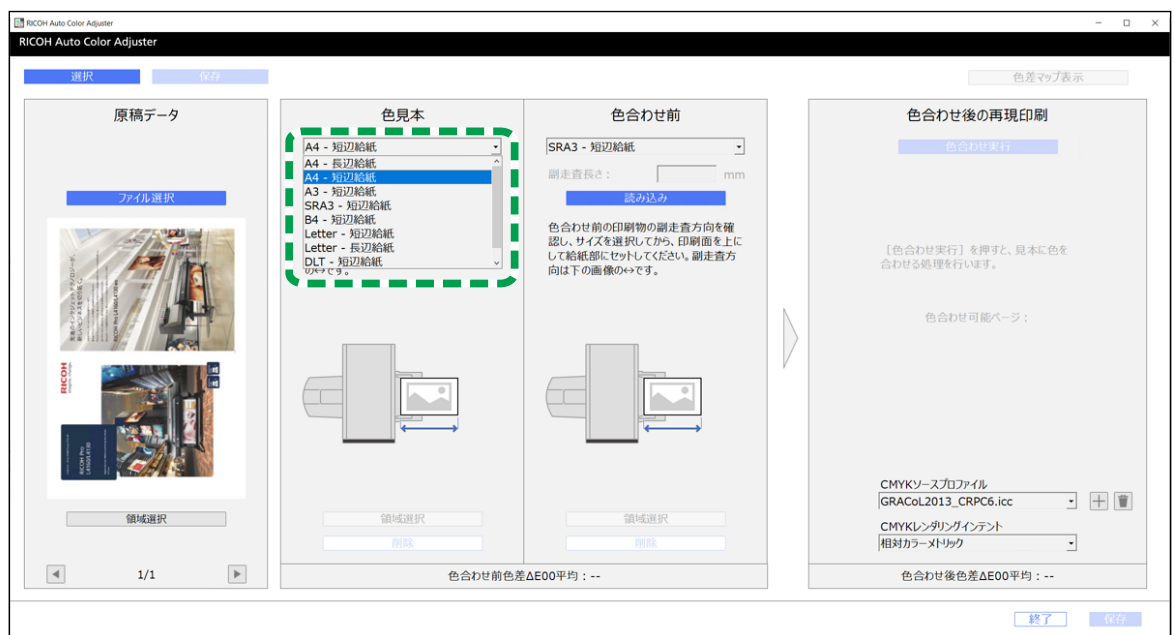
- [色合わせ後の再現印刷] の [CMYKソース] でプロファイルが指定されていないときは [CMYKソースプロファイル設定エラー] が表示されます。

選択したファイルの画像が [原稿データ] セクションに表示されます。

3. 色見本の読み取り面を上にして本機の給紙トレイにセットします。詳しくは、P. 26 「給紙トレイに原稿/チャートをセットする」を参照してください。



4. [色見本] セクションで、色見本の用紙サイズを選択します。
5. [不定形] を選択した場合は、[副走査] に副走査方向の用紙の長さを入力します。



m582om5772

★重要

- 読み取る色見本の用紙サイズと異なる選択をすると、紙詰まりが発生することがあります。

6. [色見本] セクションで、[読み込み] を選択します。読み取りが完了すると、[色見本] セクションに読み取った画像が表示されます。
5. 印刷された原稿の読み取り面を上にして本機にセットします。

補足

- 原稿データ (PDF) を複数部印刷した場合は、最後に印刷された1部を使用します。
6. 「色合わせ前」で印刷原稿の用紙サイズを指定します。「不定形」を指定した場合は、「副走査」に副走査方向の用紙の長さを入力します。



m582om5774

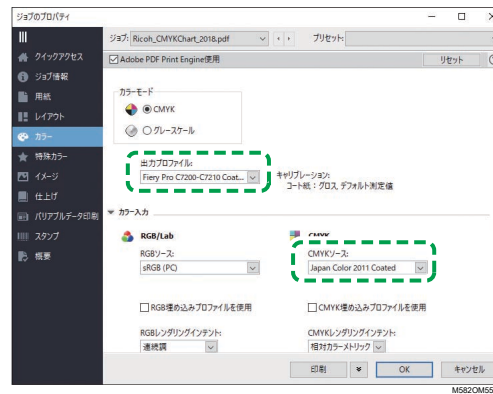
★重要

- 読み取る原稿の用紙サイズと異なる選択をすると、紙詰まりが発生することがあります。
7. 「色合わせ前」セクションで「読み込み」を選択します。読み取りが完了すると、「色合わせ前」セクションに読み取った画像が表示されます。
 8. プロファイルの作成に進みます。詳しくは、P.56 「色合わせをしてプロファイルを作成する」を参照してください。

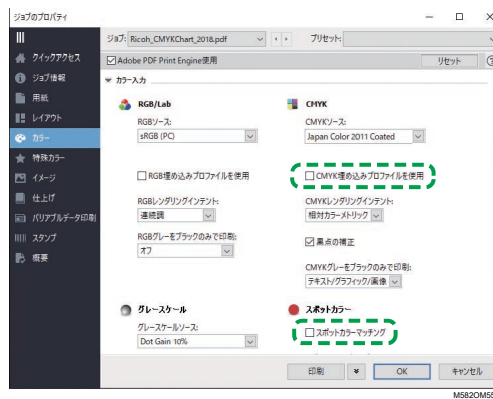
Fieryを使用して色合わせ用PDFファイルを印刷する

Fieryを使用して色合わせ用PDFファイルを印刷するには、次の手順を実行します。

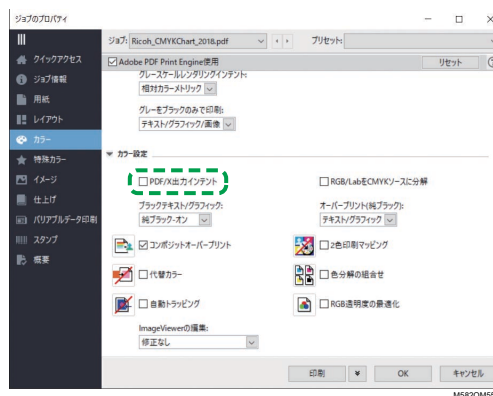
1. 「カラー」セクションで、「出力プロファイル」を使用する用紙に合わせたプロファイルに設定するか、「かんたん色調整」を使用して更新したプロファイルを指定します。



2. [CMYKソース] で、[ColorWise オフ] または [変換を省略] 以外の設定を選択します。
3. [埋め込みCMYKプロファイルを使用] のチェックを外します。



4. [スポットカラーマッピング] のチェックを外します。
5. [PDF/X出カインテント] のチェックを外します。

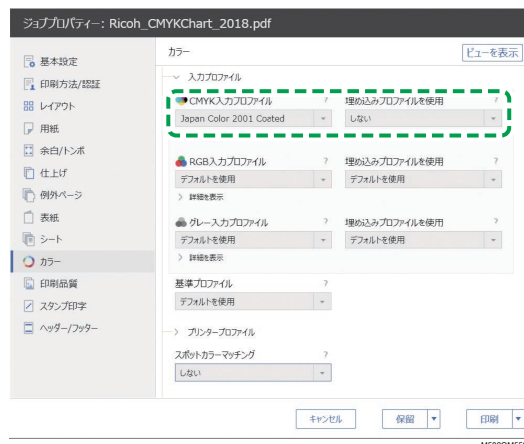


TotalFlow プリントサーバーを使用して色合わせ用PDFファイルを印刷する

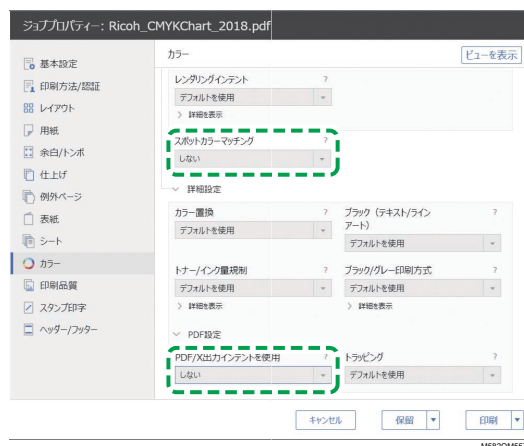
TotalFlow プリントサーバーを使用して色合わせ用PDFファイルを印刷するには、次の手順を実行します。

1. [カラー] セクションで、[プリンタープロファイル、おもて] を使用する用紙と一致するプロファイルを設定するか、[かんたん色調整] を使用して更新したプロファイルを指定します。

2. [CMYK入力プロファイル] で、[パススルー] 以外の設定を選択します。



3. [CMYK入力プロファイル] の横にある [埋め込みプロファイルを使用] を [しない] に設定します。
4. [スポットカラーマッチング] を [しない] に設定します。



5. [PDF/X出力カインテントを使用] を [しない] に設定します。

色合わせをしてプロファイルを作成する

表示された画像で色合わせを実行し、プロファイルを作成します。

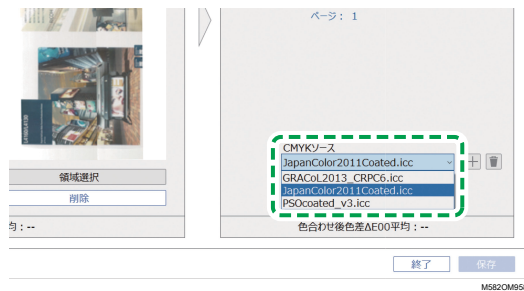
色合わせを実行し、プロファイルを作成するには、次の手順を実行します。

1. 原稿データを印刷するときに、印刷設定に指定したプロファイルを確認します。

補足

- 確認する項目名は、使用するDFEによって異なります。
 - Fiery では、設定名は [CMYKソース] です。
 - TotalFlow プリントサーバー では、設定名は [CMYK入力プロファイル] です。

2. [色合わせ後の再現印刷] の [CMYKソース] のP.56「1」で、手順2で使用したプロファイルを指定します。

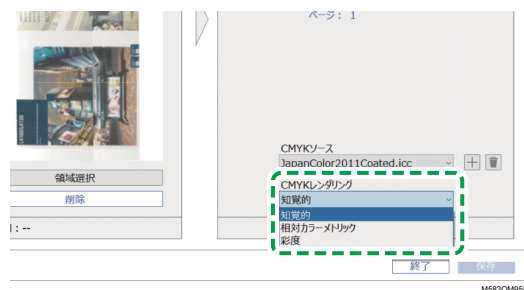


↓ 補足

- プロファイルを追加するには、[追加] ボタン (+) を選択し、追加するプロファイルを指定します。
3. 原稿データを印刷したときに、印刷設定に指定されていたレンダリングintentを確認します。

↓ 補足

- 確認する項目名は、使用するDFEによって異なります。
 - Fiery では、設定名は [CMYKレンダリングintent] です。
 - TotalFlow プリントサーバーでは、設定名は [レンダリングintent] です。
4. [色合わせ後の再現印刷] で [CMYKレンダリング] を指定します。



↓ 補足

- Fieryで [連続調] を指定していたときは [知覚的] を、 [ビジネスグラフィック] を指定していたときは [彩度] を指定します。
5. [色合わせ実行] を選択します。



色合わせ処理が開始され、プロファイルが作成されます。処理が終わるまでお待ちください。色合わせ処理が完了すると、【色合わせ後の再現印刷】に処理された画像が表示されます。

6. 色合わせが適用された後の色差平均値（シミュレート）を確認します。



m5820m5775

補足

- 色差平均値は、画像内のすべての画素の色差を平均して算出されます。

7. 色差マップで色差を確認します。

1. 【色差マップ表示】を選択します。



色差マップが表示され、ボタンのラベルが【色差マップ非表示】に変更します。

2. 色差を確認します。



m582om5776

↓ 補足

- 色差は用紙の色の値を除いて端部を切り捨てて算出されます。
- マップの明るい部分は色差が大きいかを示します。

3. [色差マップ非表示] を選択します。

8. オプション：原稿データと読み取った色見本データを含むファイルを保存します。

1. 原稿データと読み取った色見本データを含むファイルを保存するには、[色見本合わせ] ダイアログの左上で [保存] を選択します。
2. 原稿データと色見本データを保存するフォルダーがまだ作成されていない場合は、[フォルダー選択] ダイアログで [新しいフォルダー] を選択します。次に、新しいフォルダーの名前を入力します。
3. 原稿データと色見本データを保存するフォルダーを選択し、[新しいフォルダー] をクリックします。
原稿データと色見本データを選択したフォルダーに保存されます。

9. プロファイルを保存するには、[色見本合わせ] ダイアログの右下にある [保存] を選択します。

↓ 補足

- プロファイルのファイル名は *Match_yyyymmddhhmm.icc* という形式で割り当てられます。必要に応じて変更してください。

10. [終了] を選択します。

色合わせ処理が完了し、プロファイルが保存されます。色見本のデータを保存しておけば、次回の色合わせが必要なときにそれを読み込み、同じ色見本をベースにプロファイルを作成することができます。

色再現性の品質を高くする

色合わせを実行後でも色差が大きいときは、色合わせを2回実行して色再現性の品質を向上させます。

★重要

- この手順を実行しても、色合わせの精度が高くなることはありません。
- メッセージが表示された場合は、「RICOH Auto Color Adjuster：ユーザーガイド」を参照してください。

色再現性の品質を高くするには、次の手順を実行します。

1. プロファイルを保存するには、[色見本合わせ] ダイアログの右下にある[保存]を選択します。
2. 保存したプロファイルを使用して原稿データを印刷します。詳しくは、P.60「Fieryでプロファイルを使用して原稿データを印刷する」とP.61「TotalFlow プリントサーバーでプロファイルを使用して原稿データを印刷する」を参照してください。
3. [色合わせ前] セクションで[削除]をクリックします。
4. 印刷された原稿の印刷面を上にして本機にセットします。
5. [色合わせ前] で印刷した原稿のサイズを指定します。

↓ 補足

- [不定形] を指定した場合は、[副走査] に副走査方向の用紙の長さを入力します。
6. [色合わせ前] の[読み込み]をクリックします。読み取りが開始します。読み取りが終わるまで待ってください。読み取りが完了すると、読み込んだ画像が[色合わせ前]に表示されます。
 7. [色合わせ後の再現印刷] の[CMYKソース]で、手順P.57「2」で使用したプロファイルを指定します。詳しくは、P.56「色合わせをしてプロファイルを作成する」を参照してください。

↓ 補足

- プロファイルを追加するには、[追加] ボタン (+) をクリックし、追加するプロファイルを指定します。
8. [色合わせ実行] をクリックし、再度色差を確認します。

Fieryでプロファイルを使用して原稿データを印刷する

色合わせで作成されたプロファイルを使用し、色見本に合わせた色で原稿データを印刷します。

↓ 補足

- 操作手順は、使用しているDFEによって異なります。FieryまたはTotalFlow プリントサーバー以外のDFEを使用しているときは、DFEの取扱説明書を参照してください。
1. Fiery Command Workstationを開始します。

2. システム管理者としてアプリケーションにログインします。
3. [サーバー] → [データセンター] をクリックします。
4. [リソース] → [プロファイル] をクリックします。
5. [インポートを] をクリックし、[CMYKソースとシミュレーション] を指定します。
6. 作成されたプロファイルを指定します。
「Fiery」にプロファイルがインポートされます。
7. 印刷設定の [CMYKソース:] でインポートしたプロファイルを指定します。
8. その他の項目は、色合わせを実行する前の原稿データを印刷したときと同じ設定を指定します。
9. 原稿データを印刷します。

TotalFlow プリントサーバーでプロファイルを使用して原稿データを印刷する

色合わせで作成されたプロファイルを使用し、色見本に合わせた色で原稿データを印刷します。

↓ 補足

- 操作手順は、使用しているDFEによって異なります。FieryまたはTotalFlow プリントサーバー以外のDFEを使用しているときは、DFEの取扱説明書を参照してください。
 1. 管理者権限を持つアカウントでTotalFlow プリントサーバーを起動します。
 2. [設定] → [プロファイル] をクリックします。
 3. [カラーマネージメント] → [プロファイル] をクリックします。
 4. [CMYK入力プロファイルで]、[編集] ボタン (✎) をクリックします。
 5. [インポート] → [CMYKソースとシミュレーション] をクリックします。
 6. 作成したプロファイルを指定し、[インポート] をクリックします。
 7. [CMYK入力プロファイル] を指定し、[OK] をクリックします。
 8. 作成したプロファイルを指定します。
「TotalFlow プリントサーバー」にプロファイルがインポートされます。
 9. 印刷設定の [CMYK入力プロファイル] でインポートしたプロファイルを指定します。
 10. その他の項目は、色合わせを実行する前の原稿データを印刷したときと同じ設定を指定します。
 11. 原稿データを印刷します。

色見本合わせを応用する

複数ページの原稿データを使用したり、ページの特定の領域を指定したりすると、色の再現性の品質を高くすることができます。

複数ページの原稿データを使用する

最大15ページの原稿を使用して、色の再現性の品質を高くします。

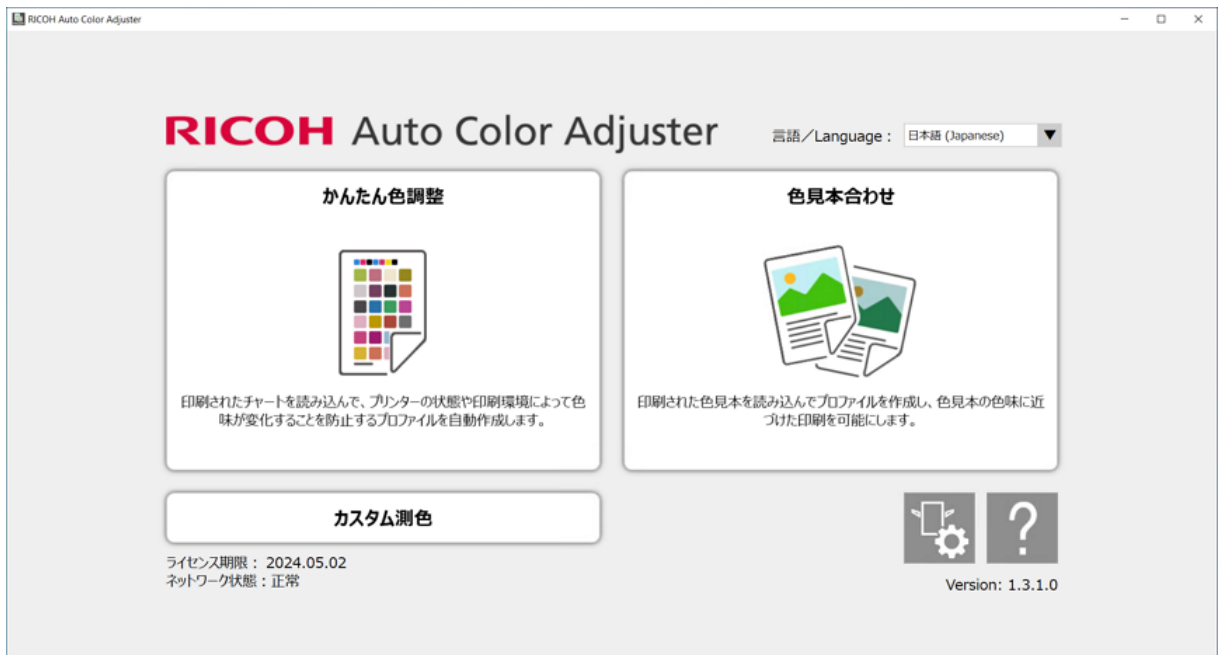
複数ページの原稿データを使用するには、次の手順を実行してください。

1. 原稿データ（PDF）を印刷します。
 1. 色合わせを実行するプリンターを選択します。
 2. 原稿データを印刷します。印刷設定については、P.54 「Fieryを使用して色合わせ用PDFファイルを印刷する」またはP.55 「TotalFlow プリントサーバーを使用して色合わせ用PDFファイルを印刷する」を参照してください。

★重要

- 印刷時は原稿データの拡大や縮小はしないでください。

2. コンピューターで [色見本合わせ] をクリックします。

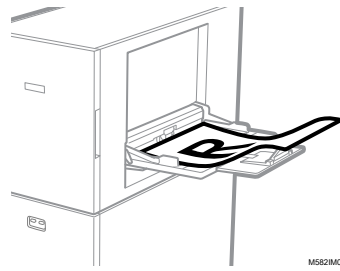


m582om0850

[色見本合わせ] 画面が表示されます。

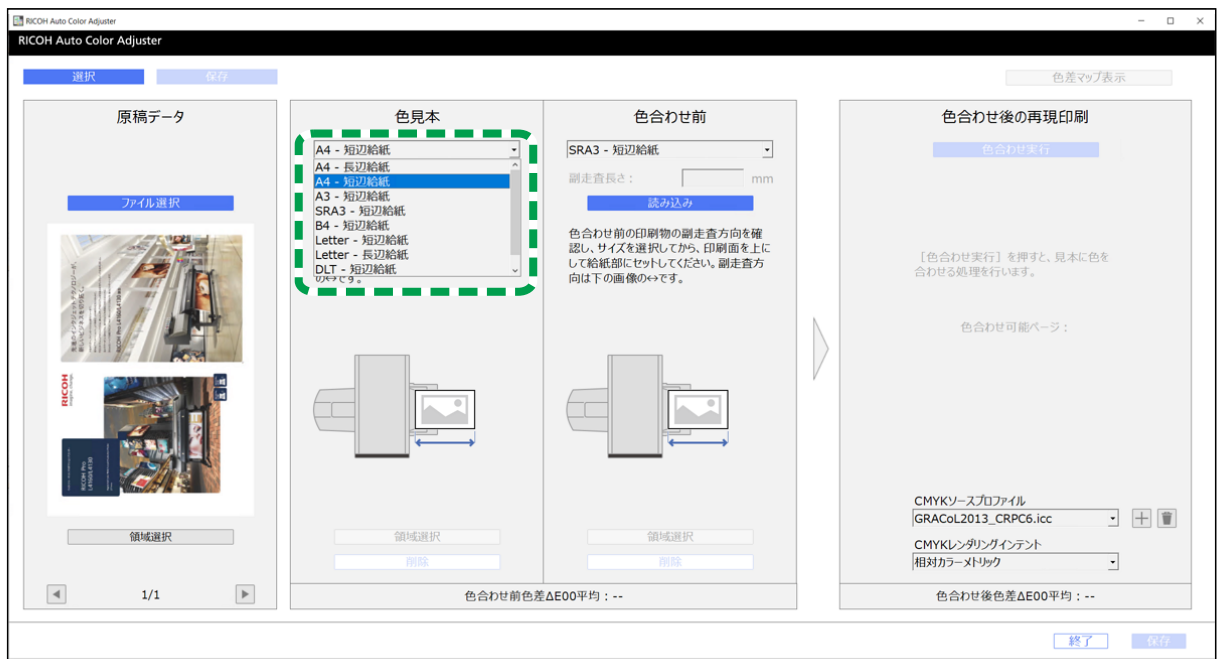
↓補足

- 画面に表示されている項目を左から右に操作します。
3. [原稿データ] セクションで [ファイル選択] をクリックします。
 4. [原稿データを選択] ダイアログで、原稿データを含むファイルを選択します。選択したファイルが [原稿データ] セクションに表示されます。
 5. [前のページ] ボタン (◀)、[次のページ] ボタン (▶) をクリックして、色合わせのページに移動します。
 6. 色見本の読み取り面を上にして本機の給紙トレイにセットします。詳しくは、P.26 「給紙トレイに原稿/チャートをセットする」を参照してください。



MS22M0177

7. [色見本] セクションで、印刷する色見本の用紙サイズを選択します。
8. [不定形] を選択した場合は、[副走査] に副走査方向の用紙の長さを入力します。



m5820m5772

★重要

- 読み取る色見本の用紙サイズと異なる選択をすると、紙詰まりが発生することがあります。
9. [色見本] セクションで、[読み込み] を選択します。読み取りが完了すると、[色見本] セクションに読み取った画像が表示されます。
 10. 印刷された原稿の読み取り面を上にして本機にセットします。
 11. [色合わせ前] で印刷原稿の用紙サイズを指定します。[不定形] を指定した場合は、[副走査] に副走査方向の用紙の長さを入力します。



m582om5774

★重要

- 読み取る原稿の用紙サイズと異なる選択をすると、紙詰まりが発生することがあります。
12. [色合わせ前] セクションで [読み込み] をクリックします。読み取りが完了すると、[色合わせ前] に読み取った画像が表示されます。
 13. すべてのページを読み取るには、手順3から13を繰り返します。
 14. [原稿データ] セクションで、[前のページ] ボタン (◀) と [次のページ] ボタン (▶) をクリックし、すべてのページが読み込まれたことを確認します。
 15. プロファイルの作成に進みます。詳しくは、P.56 「色合わせをしてプロファイルを作成する」を参照してください。

領域と向きを指定する

面付けされた原稿データがページごとに印刷されているときに色合わせする場合は、すべてのページで同じ領域と向きを指定すると、色再現性の品質が向上します。また、[位置合わせエラー] が表示されたときは、領域を指定して位置を合わせます。

領域と向きを指定するには、次の手順を実行します。

1. 原稿データ (PDF) を印刷します。
 1. 色合わせを実行するプリンターを選択します。
 2. 印刷設定に必要な指定をして原稿データを印刷します。印刷設定については、P.54 「Fieryを使用して色合わせ用PDFファイルを印刷する」またはP.55 「TotalFlow プリントサーバーを使用して色合わせ用PDFファイルを印刷する」を参照してください。

★重要

- 印刷時は原稿データの拡大や縮小はしないでください。
2. コンピューターで [色見本合わせ] をクリックします。



m582om0850

[色見本合わせ] 画面が表示されます。

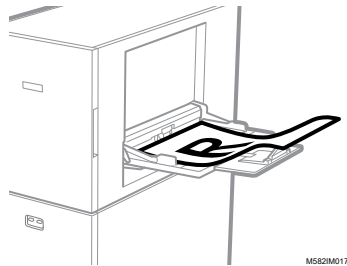
↓ 補足

- 画面に表示されている項目を左から右に操作します。
3. 保存された原稿データと色見本があれば、それらを読み込みます。
 1. 指定された領域の保存された原稿データと色見本を読み込むには、[選択] を選択します。
 2. [フォルダー選択] ダイアログで、原稿データと読み取った色見本データを含むファイルを選択します。
 3. [フォルダーの選択] をクリックします。
原稿ファイルと色見本の指定された領域が [色見本合わせ] ダイアログに表示されます。
 4. 指定された領域の保存した色見本がない場合は、読み取ってください。
 1. [原稿データ] セクションで [ファイル選択] をクリックします。
 2. [原稿データを選択] ダイアログで、原稿データを含むファイルを選択します。
選択したファイルの画像が [原稿データ] セクションに表示されます。
 3. [原稿データ] セクションで [領域選択] をクリックします。
 4. 画像の向きを変更するには、[左に90度回転] または [右に90度回転] をクリックします。
 5. 領域を指定するには、指定する領域の角をクリックし、対角にドラッグします。

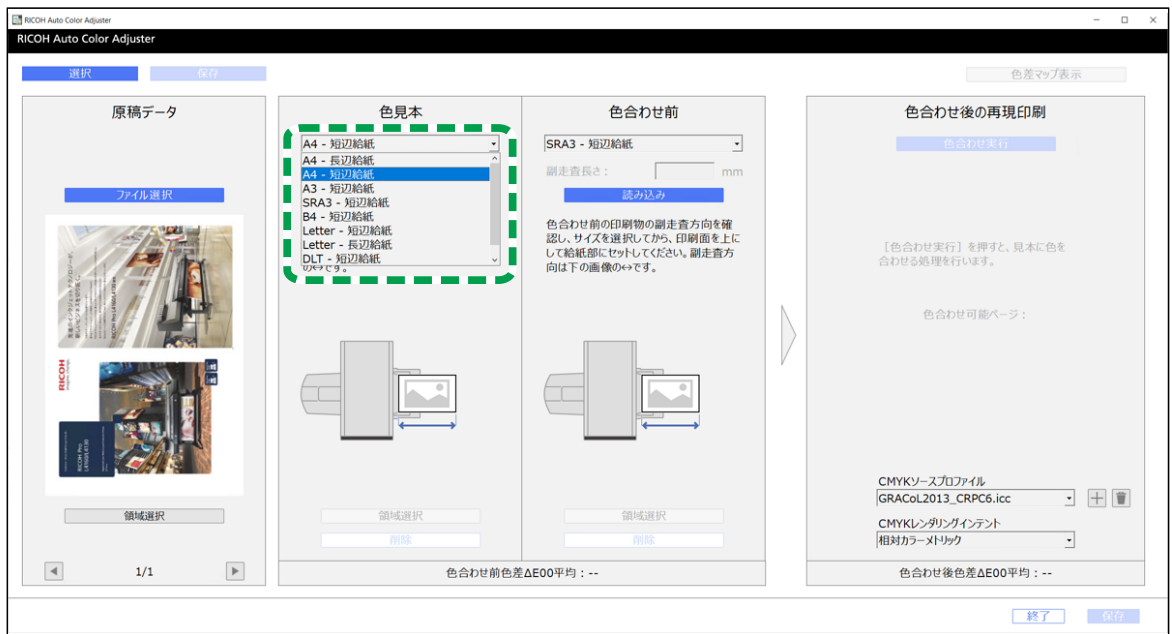


指定した領域が青枠で示されます。

6. [OK] をクリックします。
[原稿データ] で指定した領域と向き of 画像が表示されます。
7. 色見本の読み取り面を上にして本機の給紙トレイにセットします。詳しくは、P. 26 「給紙トレイに原稿/チャートをセットする」を参照してください。



8. [色見本] セクションで、色見本の用紙サイズを選択します。[不定形] を選択した場合は、[副走査] に副走査方向の用紙の長さを入力します。



★重要

- 読み取る色見本の用紙サイズと異なる選択をすると、紙詰まりが発生することがあります。
9. [色見本] セクションで、[読み込み] を選択します。

読み取りが完了すると、[原稿データ] で選択した領域に合わせた画像が [色見本] に表示されます。

10. 画像の選択した領域の指定を変更するには、[色見本] セクションの [領域選択] をクリックし、再度領域を指定します。手順「4」の4.4~4.6と同じ手順を使用します。
5. 印刷された原稿の読み取り面を上にして本機にセットします。
6. [色合わせ前] セクションで、印刷した原稿のサイズを選択します。[不定形] を選択した場合は、[副走査] に副走査方向の用紙の長さを入力します。

★重要

- 読み取る原稿の用紙サイズと異なる選択をすると、紙詰まりが発生することがあります。
7. [色合わせ前] セクションで [読み込み] をクリックします。
読み取りが完了すると、[原稿データ] で選択した領域に合わせた画像が [色合わせ前] に表示されます。
 8. 画像の選択した領域の指定を変更するには、[色合わせ前] の [領域選択] をクリックし、再度領域を指定します。手順「4」の4.4~4.6と同じ手順を使用します。
 9. プロファイルの作成に進みます。詳しくは、P.56 「色合わせをしてプロファイルを作成する」を参照してください。

6. 管理コンソール

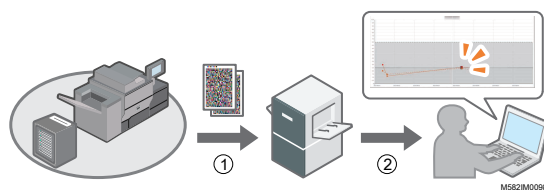
- 管理コンソールの流れ
- 管理コンソールで色調整結果を確認する

管理コンソールは、各種認証基準でプロファイルの簡易判定を行います。プリンターごとに、判定結果の経時変化の記録を管理できます。

管理コンソールの流れ

〔管理コンソール〕では、定期的に行う〔かんたん色調整〕の調整値と色判定結果を使用します。現在の状態を確認するには、〔かんたん色調整〕の色判定を実行し、その結果を〔管理コンソール〕で確認します。

詳しくは、P.29「かんたん色調整の流れ」を参照してください。



1. かんたん色調整

〔かんたん色調整〕で色を調整し、色判定します。

2. 時間の経過による変化をチェックする

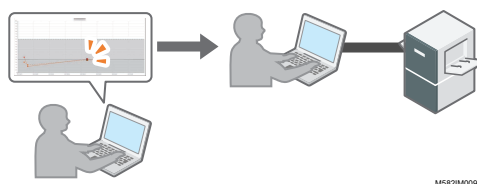
〔管理コンソール〕で色の経時変化を確認します。指定した閾値を超えた場合には、色調整を行います。

グラフの閾値

平均色差と最大色差が〔初期設定〕の〔チャート追加／編集〕画面で指定した検証基準（〔Japan Color Digital 2011 Coated, Wedge〕など）と〔閾値設定〕画面の設定に応じて、許容範囲内かどうか判定されます。

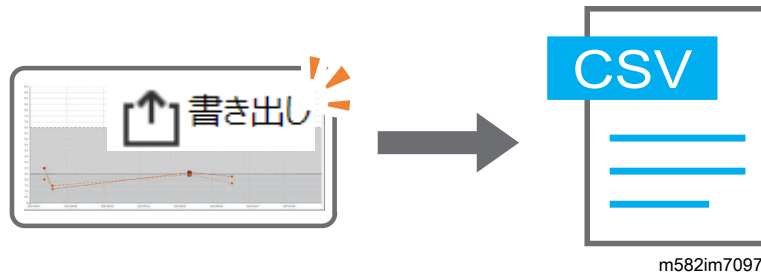
別のコンピューターから管理コンソールを使用する

〔管理コンソール〕は、USBケーブルで本機と直接接続しているコンピューターから、または別のコンピューターからネットワーク経由で本機に接続して使用できます。



レポートファイルを保存する

〔管理コンソール〕に表示されている経時変化の情報を、CSV形式のレポートファイルとして保存できます。



管理コンソールで色調整結果を確認する

〔管理コンソール〕画面を使用して、プリンターのカラー状態を確認できます。

★重要

- 現在の状態を確認するには、〔かんたん色調整〕の色判定を行い、その結果を〔管理コンソール〕で確認します。詳しくは、P.38 「色判定を実行する」を参照してください。



〔管理コンソール〕画面を表示する

Webブラウザのアドレスバーに、USBケーブルで接続されたコンピューター（サーバー）のIPアドレスとポート番号を入力し、〔管理コンソール〕画面を表示します。

〔管理コンソール〕画面を表示するには、次の手順を実行します。

1. サーバーのIPアドレスとポート番号を確認します。

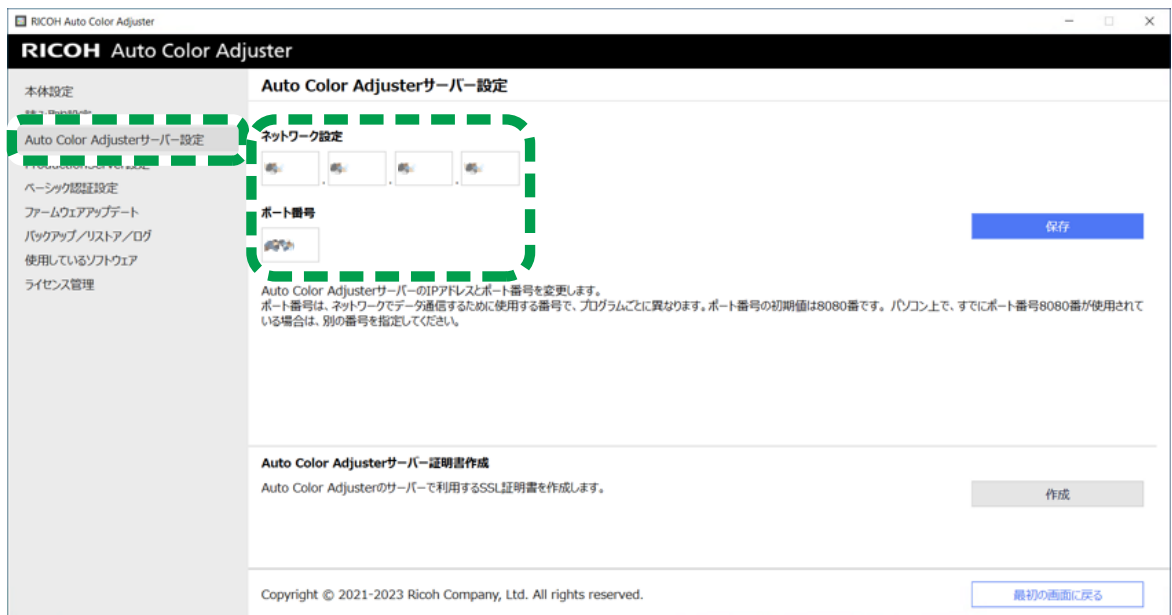
↓補足

- 本機を複数台で操作しているときに、クライアントコンピューターを使用しているときは、管理者にサーバーのIPアドレスとポート番号を確認してください。
1. メニュー画面が表示されていない場合は、デスクトップの〔RICOH〕アイコン（) をクリックして起動します。
 2. メニュー画面の〔本体設定〕ボタン（) をクリックします。



m5820m5958

3. [Auto Color Adjusterサーバー設定] をクリックし、IPアドレスとポート番号を確認します。



m5820m8570

↓ 補足

- [管理コンソール] は、ネットワーク上のコンピューターからも使用できます。Webブラウザのアドレスバーに、USBケーブルで本機に接続しているコンピューターのIPアドレスとポート番号を入力します。
2. Webブラウザを開き、アドレスバーにIPアドレスとポート番号を入力します。



↓ 補足

- 「`https:// (IPアドレス): (ポート番号)`」の形式でIPアドレスとポート番号を入力します。コロン (:) とピリオド (.) は省略しないでください。ポート番号が「80」の場合、コロン以降は省略できます。

3. ユーザー名とパスワードを入力します。

↓ 補足

- デフォルトのユーザー名とパスワードは次のとおりです。
 - ユーザー名: aca-user
 - パスワード: user

[管理コンソール] 画面が表示されます。

色の経時変化を確認する

[管理コンソール] 画面で折れ線グラフが表示されます。グラフを表示する日付と設定を指定し、プリンターでプリンターのカラー状態を確認します。

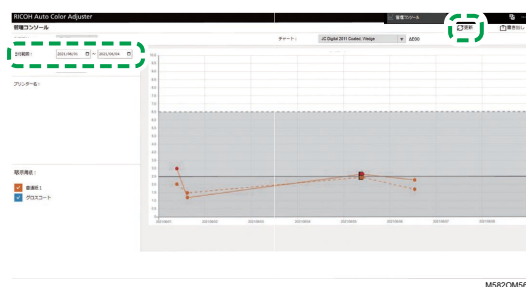
6

折れ線グラフのデフォルト設定は、次のとおりです。

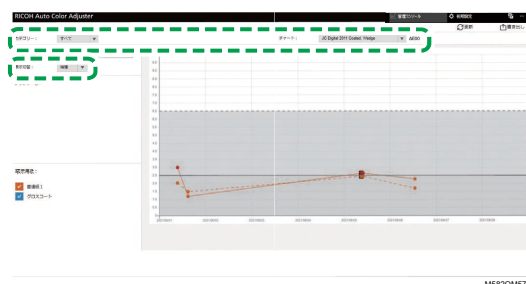
- [ロケーション:] [すべて]
- [チャート:] [初期設定] に指定したチャート
- [日付範囲:] 7日前～本日
- [表示切替:] [機種]

色の経時変化を確認するには、次の手順を実行します。

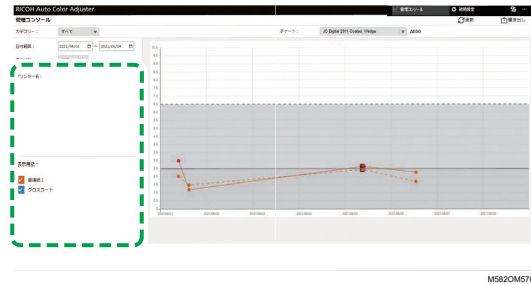
1. [日付範囲:] で変化を確認する期間を指定し、[更新] をクリックします。



2. [ロケーション:]、[チャート:]、[表示切替:] の設定を変更します。



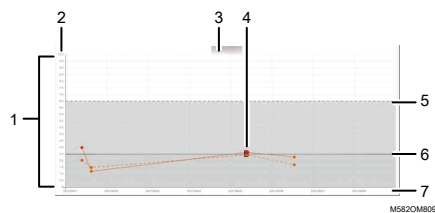
1. [ロケーション:] フィールドで、確認するプリンターがあるロケーションを指定します。
2. [チャート:] フィールドで、色を比較する検証対象（基準）を指定します。
3. [表示切替:] フィールドで、プリンター機種ごとにグラフを表示するか、用紙ごとにグラフを表示するかを指定します。
3. グラフに表示するプリンターや用紙を絞り込むには、非表示にする項目のチェックを外します。



4. グラフを確認します。グラフの読みかたについては、P.73「グラフの読みかた」を参照してください。
5. レポートファイルを CSV 形式で保存するには、[書き出し] をクリックします。レポートに保存される項目について詳しくは、P.74「グラフデータを含むレポート」を参照してください。
6. Webブラウザを閉じます。

グラフの読みかた

[管理コンソール] 画面では折れ線グラフが表示されます。



1. 折れ線グラフ

各プリンターまたは用紙ごとにグラフ線が表示されます。線の色は、[プリンター名:] または [表示用紙:] のチェックの色に対応します。

実線は色差平均値、点線は最大色差を示します。

2. 色差 (ΔE_{2000})

縦軸に色差の値が表示されます。

3. プリンター名

4. プロット●

プロット上にマウスカーソルを合わせると、データが取得された日時と色差が表示されます。

表示された閾値を外れた値のプロットは赤で、色調整でICCプロファイルを登録した後に初めて色判定を実行したときの値は■で表示されます。

5. 閾値（最大）

【初期設定】で指定した閾値の最大値は横の破線で表示されます。

6. 閾値（平均）

【初期設定】で指定した閾値の平均値は横の実線で表示されます。

7. 日付

横軸に日付が表示されます。

グラフデータを含むレポート

【管理コンソール】画面に表示される折れ線グラフを基にしたレポートをエクスポートできます。レポートファイルはCSVファイルとしてエクスポートされます。

レポートファイルに含まれる項目

レポートファイルの項目	説明
IP Address	IPアドレス
Server Name	DFE名
Machine Name	プリンター名
Location	ロケーション
Paper Type	用紙種類
Paper Name	用紙名
ICC Profile Name	ICCプロファイル名
Printing Condition	チャート名
Max Threshold ^{1,2} Ave Threshold ^{1,2} 95 Percentile [without boundary patches] Threshold ^{2,5} Ave [without boundary patches] Threshold ^{2,5} K gray average w Δ L Threshold ⁴ K gray maximum w Δ L Threshold ⁴ CMY gray average w Δ L Threshold ⁴ CMY gray maximum w Δ L Threshold ⁴ CMY gray average w Δ Ch Threshold ⁴ CMY gray maximum w Δ Ch Threshold ⁴ CMY gray DeltaCh AVE Threshold ⁵ CMY gray DeltaCh MAX Threshold ⁵	各種チャートの基準

レポートファイルの項目	説明
Paper White DELTA Threshold ⁵	
Date Time	測色年月日時分秒
DELTA	個々の色差の値
DELTA AVE ^{1, 3}	平均色差
DELTA AVE [without boundary patches] ^{2, 5}	平均色差（境界パッチを除く）
95 Percentile [without boundary patches] ^{2, 5}	95パーセンタイルの色差（境界パッチを除く）
CMY gray average w Δ L ⁴	CMYグレーの平均加重デルタL
CMY gray maximum w Δ L ⁴	CMYグレーの最大加重デルタL
K gray average w Δ L ⁴	Kグレーの平均加重デルタL
K gray maximum w Δ L ⁴	Kグレーの最大加重デルタL
CMY gray average w Δ Ch ⁴	CMYグレーの平均加重デルタCh
CMY gray maximum w Δ Ch ⁴	CMYグレーの最大加重デルタCh
CMY gray DeltaCh AVE ⁵	コンポジットグレーの平均色差
CMY gray DeltaCh MAX ⁵	コンポジットグレーの最大色差
Paper White DELTA ⁵	紙白の色差

¹ [Japan Color Digital 2011 Coated, Wedge] のチャートを使用時

² [ISO12647-8 Coated V3 F51] のチャートを使用時

³ [Verify GRACoL2013, Wedge] のチャートを使用時

⁴ [Simple Gray Scale, Wedge 2013] のチャートを使用時

⁵ [ISO12647-8:2021 Coated V3 F51] のチャートを使用時

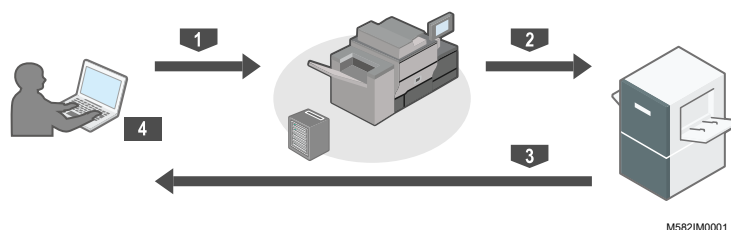
7. カスタム測色

- カスタム測色の流れ
- 測色用チャートを確認する
- カスタム測色を実行する

色調整するプリンターで測色用のチャートを印刷し、本機で読み込んで色を測定します。

測色用チャートのリストからよく使用されるチャートを選択できますが、用紙サイズやカラーパッチを指定して新しい測色用チャートを作成できます。測定結果は、IT8またはCGATS TXTの形式で保存します。このファイルを色管理アプリなどで読み込み、プリンターの色品質管理に使用します。

カスタム測色の流れ



- 1 色を測定するプリンターで測色用チャートを印刷します。
- 2 印刷した測色用チャートを本機にセットします。
- 3 [カスタム測色] からチャートを読み取ります。
- 4 測色結果がコンピューターに保存されます。

測色用チャートを確認する

[カスタム測色] セクションでは、各種用紙サイズと各種カラーパッチのチャートを使用して、プリンターが作成する色を測定します。

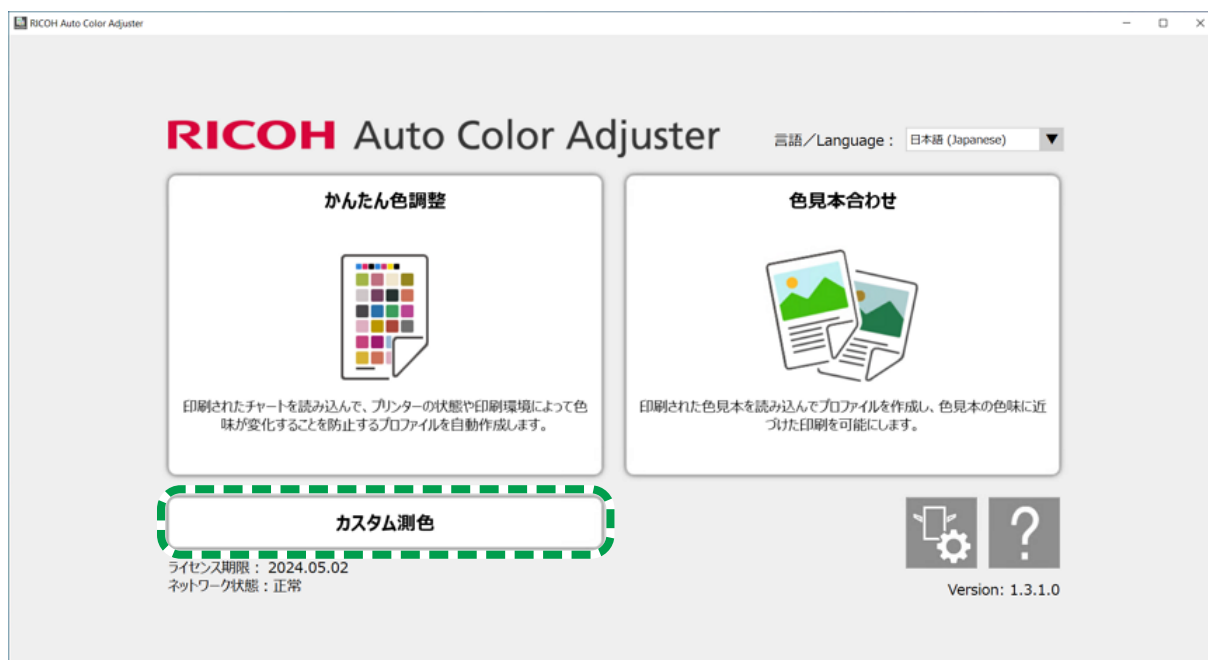


↓ 補足

- 測色用チャートリストには、IT8.7-3、IT8.7-4/IT8.7-4 Random、IT8.7-5/TC1617、ECI2002/ ECI 2002 Random、Idealliance Control Strip 2009、Idealliance Control Wedge 2014などの測色用チャートが登録されています。準拠したい規格で対象色を測定するときに、リストからいずれかのチャートを使用します。
- カスタマイズした配色のチャートで使用する場合は、チャート上の用紙サイズとカラーパッチを指定するテキストファイル「チャート情報ファイル」を作成し、リストに登録します。詳しくは、「RICOH Auto Color Adjuster：ユーザーガイド」を参照してください。

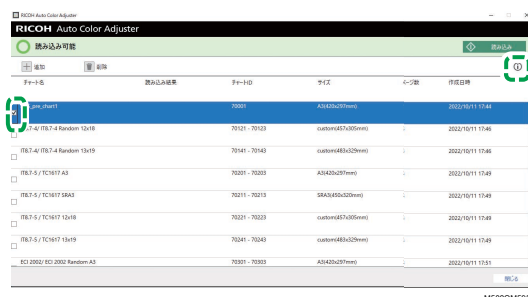
測色用チャートを確認するには、次の手順を実行します。

1. コンピューターで [カスタム測色] をクリックします。



m582om5952

- 測色用チャートにチェックを付け、[情報] ボタン (i) をクリックします。



- 測色用チャートを確認します。



カスタム測色を実行する

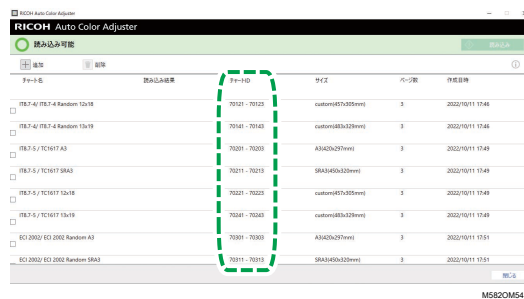
カスタム測色を実行するには、次の手順を実行します。

1. コンピューターで [カスタム測色] をクリックします。

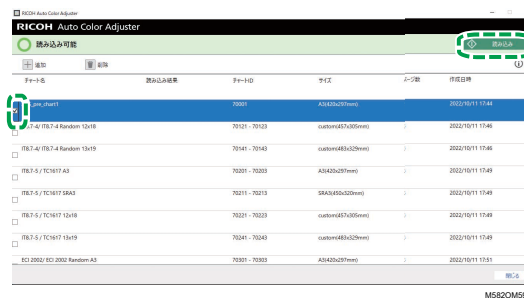


m582om5952

2. 使用する測色用チャートの [チャートID] を確認します。



3. 測色するプリンターで、「C:¥RicohAutoColorAdjuster¥ReferenceChart ¥CMS」の各チャートIDのフォルダーに格納されているPDFを印刷します。
4. 測色用チャートの読み取り面を上にして本機にセットします。詳しくは、P.26 「給紙トレイに原稿/チャートをセットする」を参照してください。
5. 測色用チャートにチェックを付け、[読み込み] をクリックします。



6. [測定条件/保存設定] ダイアログで、測定条件、測定結果の保存先、その他の設定を指定し、[OK] をクリックします。



1. [ファイル名] フィールドに、測定結果を保存するファイル名を入力します。

↓ 補足

- 複数の測色用チャートを指定したときは、ファイル名を指定できません。
- 「(チャート名)+(mmdd)」のファイル名がファイルに自動的に割り当てられます。

2. [参照] をクリックし、ファイルの保存先フォルダーを指定します。
3. [M0] (A)、[M1] (D50)、[M2] (A+UVカット) から [照明条件] を選択します。
4. [測定カラースペース] フィールドで、[Lab]、[LCh]、[XYZ]、[分光]、[濃度 (ステータスT)]、[濃度 (ステータスE)] から測定用カラースペースを選択します。
5. [保存ファイルフォーマット] フィールドで、測定結果を保存するファイル形式を [IT8] (拡張子.it8) および [CGATS.txt] (拡張子.txt) から選択します。

7. [読み取り開始] をクリックします。



m582om0661

本機で測色用チャートの読み取りが開始され、指定したフォルダーにファイルが作成されます。

↓ 補足

- メッセージが表示された場合は、「RICOH Auto Color Adjuster : ユーザーガイド」を参照してください。

8. 用紙が詰まったとき

- 詰まった用紙を取り除く

コンピューターに「カバーを開けて原稿／チャートを取り除いてください。」と表示されたときは、本機の前ドアを開けて用紙を取り除いてください。

★重要

- 用紙を取り除くときは、本機の電源を切らないでください。
- 用紙を取り除くには、両手で左右の端を持ち、用紙を均等に引っ張ってください。
- 詰まった用紙を取り除くときに、用紙が破れたり本機内部に紙片が残ったりしないように注意してください。本機内部に紙片が残ると、紙詰まりや故障の原因となります。
- 用紙が破れた場合は、ジグソーパズルのように紙片を組み合わせ、すべての紙片が揃っていることを確認してください。1つでも紙片が欠けている場合は、本機内部に残っていることがあります。サービス担当者に連絡してください。
- 詰まった用紙を取り除いてもメッセージが消えない場合は、本機内部に他の用紙が詰まっているか確認してください。

詰まった用紙を取り除く

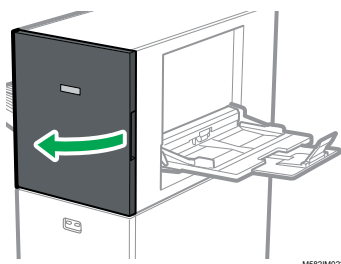
本機の前ドアを開け、以下の手順に従って詰まった用紙を取り除きます。説明は本機の前ドアの内側にも記載されています。

↓補足

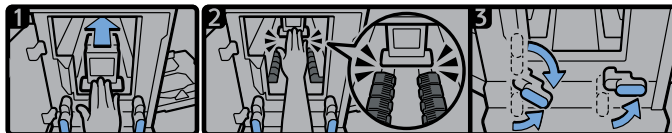
- 頻繁に用紙が詰まる場合は、用紙の状態や用紙のセット方法を確認してください。また、用紙サイズが正しいことを確認してください。詳しくは、「RICOH Auto Color Adjuster：ユーザーガイド」を参照してください。

詰まった用紙を取り除くには、次の手順を実行します。

1. 本機の前ドアを開きます。

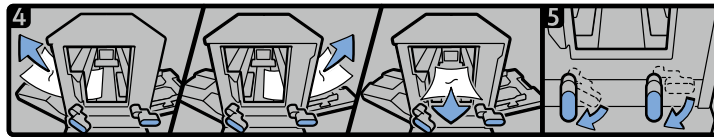


2. 読み取りユニットを押し、本機の奥に移動します(1)。



3. 読み取りユニットが黒色の用紙搬送部(2)の後側に来るように、奥に移動します。
4. 右レバーを下から右に回します(3)。
5. 左レバーを上または下から右に回します(3)。

6. 両方のレバーが図(3)の位置にあることを確認します。
7. 給紙側または排紙側から用紙を取り除きます(4)。



M582IM7221_1

↓ 補足

- どちらの方向からも用紙が引き出せない場合は、本機内部から手前に向かって引き抜いてください。
8. 右レバーを下方方向に回します(5)。
 9. 左レバーを下方方向に回します(5)。
 10. 前ドアを閉じます。

株式会社リコー

東京都大田区中馬込1-3-6 〒143-8555
<http://www.ricoh.co.jp/>



お問い合わせ

お買い上げいただきました弊社製品についての操作方法に関するお問い合わせは、お買い上げの販売店にご連絡ください。

転居の際は、販売店にご相談ください。転居先の最寄りの販売店をご紹介します。

